

63-209-1



1200701691805

63

209



始



2.7.8

ナ
ウ

63-2091



西洋草花

明治
44. 4. 26
内交

西洋草花

はしがき

本書は著者が歐洲より歸りて多年實驗したる西洋草花の栽培法を最も平易に記述したるものであります。

世に娛樂は種々ありますけれども、園藝ほど健康にも適ひ而して高尚に優美に自然の趣味と無上の娛樂とを具備するものは恐くは他にありません。然し園藝と申してもいろいろあります。但し、その中で草花の栽培は最も容易で美しく、誰にでも出来るものであります。故に、一般の家庭に此の無上の自然の娛樂を頒ちたいと思ひまして、學理に涉ることや温室もの、面倒なもの、省きまして、唯西洋草花の成るべく、美しく、新しいもの、又新しい種類を撰んで置きました。

土の拵へ方、肥料なども極めて簡易に誰にでも扱へるもので、何

の草花にでも効驗のあるものを擧げて置きました。此の書にあるものは皆著者の實驗し又栽培しつゝあるもの許りでありますから如何なる初心者でも一度此の書を手にせらるれば必ず會得せらるゝことは固く信じて居ります。

尙本書に就て質問のある方は來園あらば實地につき説明の勞をとるを惜しませぬ。

東京澁の川に於て

康樂園主人誌す

明治四十四年三月

目次

(一) 培養土の拵へ方……………一

(二) 肥料……………二

(三) 苗床の拵へ方……………三

(四) 繁殖……………六

 (イ) 鉢播……………六

 (ロ) 床播……………八

 (ハ) 直播……………九

 (ニ) 分株……………一〇

 (ホ) 壓條……………一〇

 (ヘ) 挿木……………一二

(五) 苗の移植……………一三

〔六〕栽培の注意……………一五

アイコニア、アキレギア、アトロ、クリニウム、アグロステンマ、アゲラツム、アスター、アドニス、アナガリス、アリスサム、アルクトチス、アルジーネ、アルチルリウム、アンモビウム、イビリス、エヒナセア、エヒルム、エツヒユ、シヨルチア、エルデルワイス、オキザリス、ガイラル、サア、カモリア、カリオプシス、カルセオラリア、カレンヂユラ、カンナ、カーネーション、カンパニユラ、キアソヒラ、ギリヤ、クラーキア、クレオメ、コスモス、コリシヤ、コレボプルス、ゴータチア、ザボナリア、サルビグロツシス、サルビア、シザンテス、シノグロツサム、シネラリア、シレネ、スカピオサ、ストツクス、セチシオ、セラニウム、セロシア、センタウレア、タゲテス、ダリア、

〔七〕栽培法……………一六

- (イ) 種 類……………一六
- 菊咲、一、れ咲—コレツ咲—グロリア咲、
- (ロ) 播 種 法……………一七
- (ハ) 球根の植込み法……………一六
- (ニ) 土質及肥料……………一六
- (ホ) 露地栽培……………一七
- (ヘ) 鉢植栽培……………一七

(ト) 繁殖法……………一七

(チ) 凌冬法……………一七

(リ) 來 歴……………一七

ゲギダリス、ゲンニア、ツニカ、テイアントウス、バルバツス、テイアントウス、アルマリユ、ス、テイアントウス、ハツテウイギ、デルヒニウム、トリトマ、トレンニア、ニグラ、ニコチアナ、アツフイニス、ニンフエナ、ネメジヤ、ネモヒラ、バイオレット、バルサム、バルトニア、バーベナ、パンジー、フアセリア、フクシヤ、ブラヒコメ、プリムラ、プリムラス、ステラター、プリムラ、ウリキウ、ラー、プリムラ、ウエリス、リアンサス、プリムラ、オアコニカ、フロツクス、ハツニア、ペラー、ゴニウム、ヘリアンサス、ヘリアンテム、ムタビレ、ヘリオトロップ、ヘリクリサム、ペゴニア、ペリス、ヘルレボルス、ペントステモン、ボツビー、ホルチユルカ、ミムラス、ミヨゾチス、ミラビリス、ヤラバ、セム、プリアンテム、ラバテラ、ランタナ、リナリア、ルドベギア、ルビニス、レセタ、レプトシホン、ロベリア、ローダンテ、ローレンベルギア、

〔八〕球根栽培法……………一三

(一) 土 地 植……………一三

(二) 鉢 植……………一三

(三) 貯 藏 法……………一四

アチモ子、アマリス、イキシヤ、イリス、カラ、グラゲオラス、クロカス、グロキシニア、

〔九〕 蔓性植物……………二七〇

||コンボラリア、マヤリス||シタラメン、||スノードロップ、||スバラキシス、||チクリゲア、||チユベ
 ローズ、||チユトリツブ、||ナーシツサス、||ヒアシント||ヒオノドキシャ||フリジア、||球根ベコニ
 ア、||ムスカリ、モント、ブレチア、||レランキユラス、||

〔拾〕 観葉植物……………二七六

アビオス、||アリストロヒア||イボメア、メキシカナ、||クレマチス、||コペア、||スウイトピー、||ツ
 ルメルギヤ||ナスターシヤマ、||マウランザヤ
 アスパラガス、||アザアナム、||アマランタス、||アルテルナンテラ||イソレピース||カラジウム、||
 コリウス、||スミラツクス、||ペコニア、ツレクス、||リチヌメ、||
 一年草及多年草花播種期及開花期一覽……………二七七
 球根及塊根植込及開花期一覽……………二九〇

西洋草花圖譜……………別冊添附
 装製及口繪七葉……………小林鐘吉
 康樂園の全景の一部……………同人

花名索引

△アイコニヤ……………	本文頁……………	草花圖譜頁……………
△アキレギア……………	一九……………	一九……………
△アクロクリニユーム……………	二〇……………	二〇……………
△アグロステンヤ……………	二一……………	二一……………
△アゲラツム……………	二一……………	二一……………
△アスタト……………	二二……………	二二……………
△アドニス……………	二二……………	二二……………
△アナガリス……………	二三……………	二三……………
△アリスサム……………	二四……………	二四……………
△アルクトチス……………	二四……………	二四……………
△アルジーネ……………	二五……………	二五……………
△アンチルリユーム……………	二五……………	二五……………
△アンモビユーム……………	二六……………	二六……………
△イベリス……………	二七……………	二七……………
△エヒナセア……………	二八……………	二八……………

△エビヒルム	二九	三
△エツシユシヨルチア	三〇	三
△エーデルワイス	三〇	三
△オキザリス	三二	四
△ガイラルチア	三三	四
△カカリア	三四	四
△カリオプシス	三四	四
△カルセオラリヤ	三五	四
△カレンデユラ	三七	四
△カンナ	三七	六
△カーネーション	三八	五
△カンバニユラ	四六	六
△キブソヒラ	四七	六
△ギリヤ	四八	六
△クラキア	四八	六
△クレオメ	四八	六
△コスモス	四九	七

△コリンジア	五〇	七
△コンボルブルス	五一	七
△ゴーデチア	五二	七
△ザボナリア	五二	七
△サルビグロツシス	五三	七
△サルビア	五四	八
△シザンザス	五五	八
△シノグロツサム	五五	八
△シネラリア	五六	八
△シレネ	五七	八
△スカピオザ	五八	八
△ストツクス	五八	九
△セネシオ	五九	九
△ゼラニユム	六〇	九
△セロシヤ	六一	九
△セントウレア	六二	九
△タゲータス	六三	九

△ダーリア	六四	十
△チギタリス	七七	十一
△チシニヤ	七八	十一
△ツニカ	七九	十一
△デアアントゥス、バルバツス	七九	十一
△デアアントゥス、ブルマリユース	八〇	十一
△デアアシトウス、ヘウデウイギー	八一	十二
△デルヒニユーム	八二	十二
△トリトーマ	八二	口繪
△トレニア	八三	十二
△ニガラ	八四	十二
△ニコチアナ、アツフィニス	八五	十二
△ニンフエア	八六	十二
△ネメデア	八八	十三
△ネモヒラ	八九	十三
△バイオレット	八九	十三
△バルサム	九二	十三

△バルトニア	九三	十三
△ハーベナ	九三	十四
△バンジー	九四	十四
△ファセリア	九五	十四
△フクシヤ	九六	十四
△プラビコトメ	九七	十四
△プリムラ	九七	十五
△フロツグス	一〇三	十五
△ペツニヤ	一〇五	十六
△ペラゴニユーム	一〇六	十六
△ヘリアンザス	一〇八	十六
△ヘリアンテムム、ムタビレ	一〇八	十六
△ヘリオトロツプ	一〇九	十六
△ヘリクリサム	一一〇	十七
△ペコニヤ	一一一	十七
△ペリス	一一三	十七
△ヘルレボルス	一一四	十七

△ペントステモン	一一五	十七
△ポツビー	一一七	十七
△ボルチユラカ	一一八	十八
△ミムラス	一一九	十八
△ミヨゾチス	一二〇	十八
△ミラピリスカラバ	一二一	十八
△メゼムブリアンテムム	一二二	十八
△ラバテラ	一二三	十九
△ランタナ	一二三	十九
△リナーリア	一二四	十九
△ルードベキア	一二四	十九
△ルビヌース	一二五	十九
△レゼダ	一二六	十九
△レプトジホン	一二六	十九
△ロベリア	一二七	二十
△ローダンテ	一二九	二十
△ワレーニベルギア	一三〇	二十

球根之部

△アネモネ	一三六	二十一
△アマリリス	一三七	二十一
△イキシヤ	一四一	二十一
△イリス	一四二	二十一
△カラ	一四三	二十一
△グラチオラス	一四四	二十一
△クロカス	一四五	二十一
△グロキシニア	一四六	二十一
△コンバラリア、マヤリス	一五〇	二十二
△シクラメン	一五一	二十三
△スノードロップ	一五三	二十三
△スバラキシス	一五三	二十四
△チドリヂア	一五四	二十四
△チユベローズ	一五五	二十四
△チユーリツプ	一五六	二十五

△ナイシツサス	一五九	二二五
△ヒアシント	一六〇	二二五
△ヒオノドキシヤ	一六二	二二五
△フリーヂヤ	一六二	二二五
△球根ベゴニヤ	一六四	二二六—二二七
△ムスカリ	一六六	二二七
△モントブレチア	一六七	二二七
△レランキユラス	一六八	二二七

蔓性植物之部

△アビオス	一七〇	二二八
△アリストロヒア	一七〇	二二八
△イボメア、メキシカナ	一七一	二二八
△クレマチス	一七二	二二八
△コペア	一七三	二二八
△スイートピー	一七四	二二八
△ツンベルギヤ	一七五	二二八

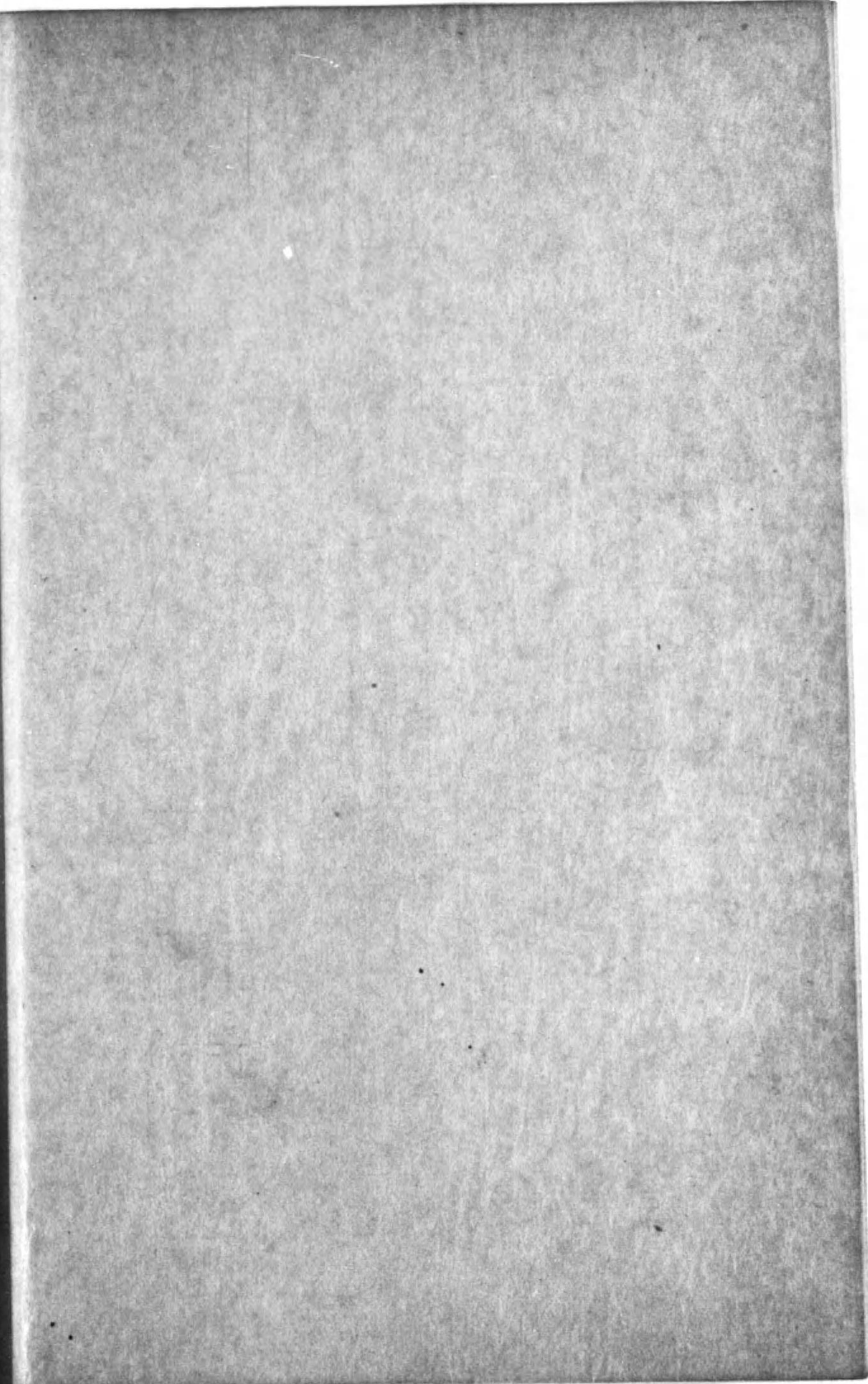
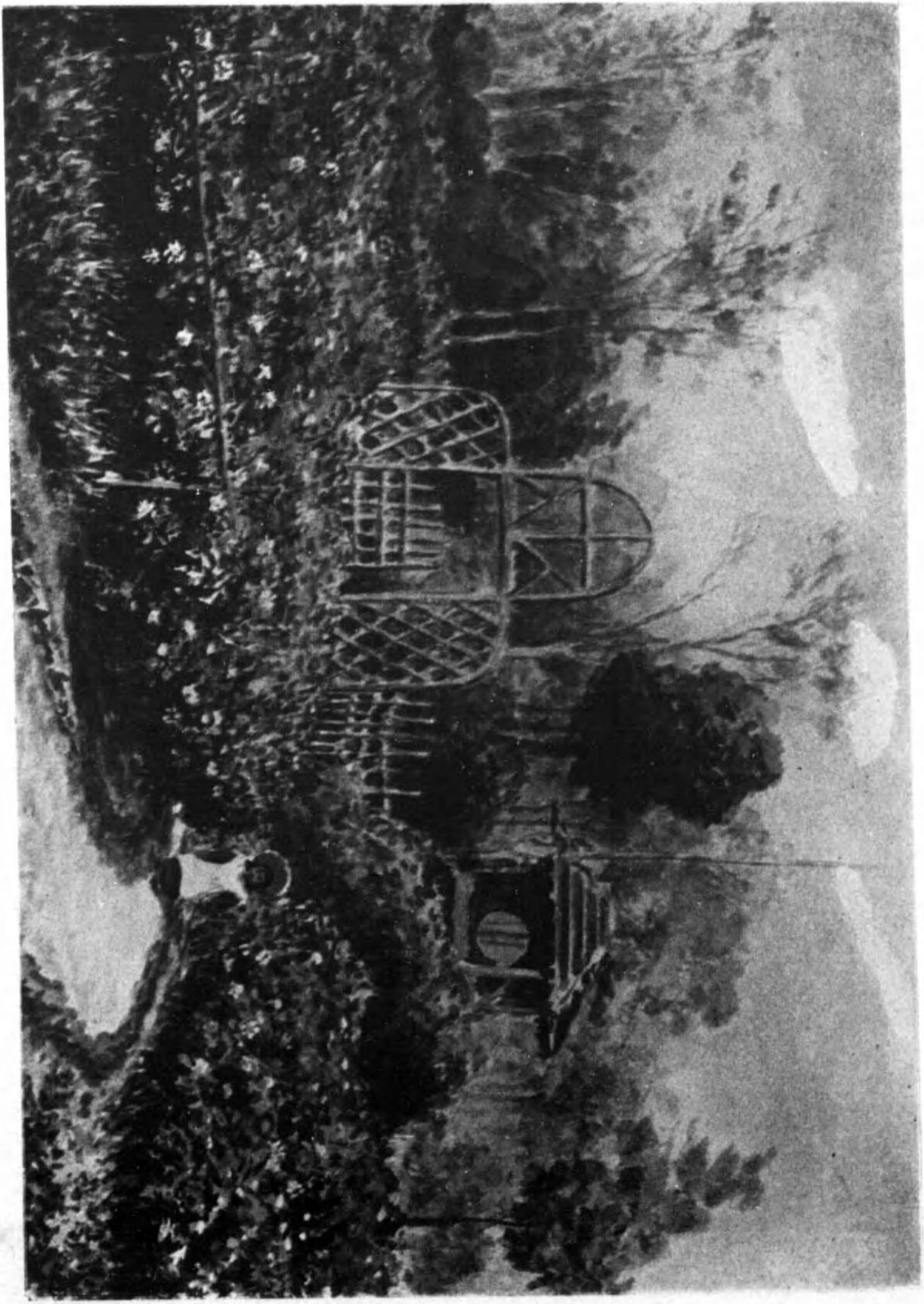
△ナスターシヤム	一七五	二二九
△マウランヂヤ	一七六	二二九
△ミナ、ロバータ	一七七	二二九

観葉植物之部

△アスバラガス	一七八	二二九
△アヂアンタム	一七九	二二九
△アマランタス	一八一	三三〇
△アルテルナンテラ	一八一	三三〇
△インレビス	一八二	三三〇
△カラヂウム	一八二	三三〇
△コリウス	一八三	三三〇
△スマラツクス	一八四	三三〇
△ベコニヤ、レツクス	一八五	三三〇
△リチヌス	一八五	三三〇

花名索引目次終

康樂園之景之一部





エーリア

ヒヤシンス

水仙

ユキカズ

キハシロク

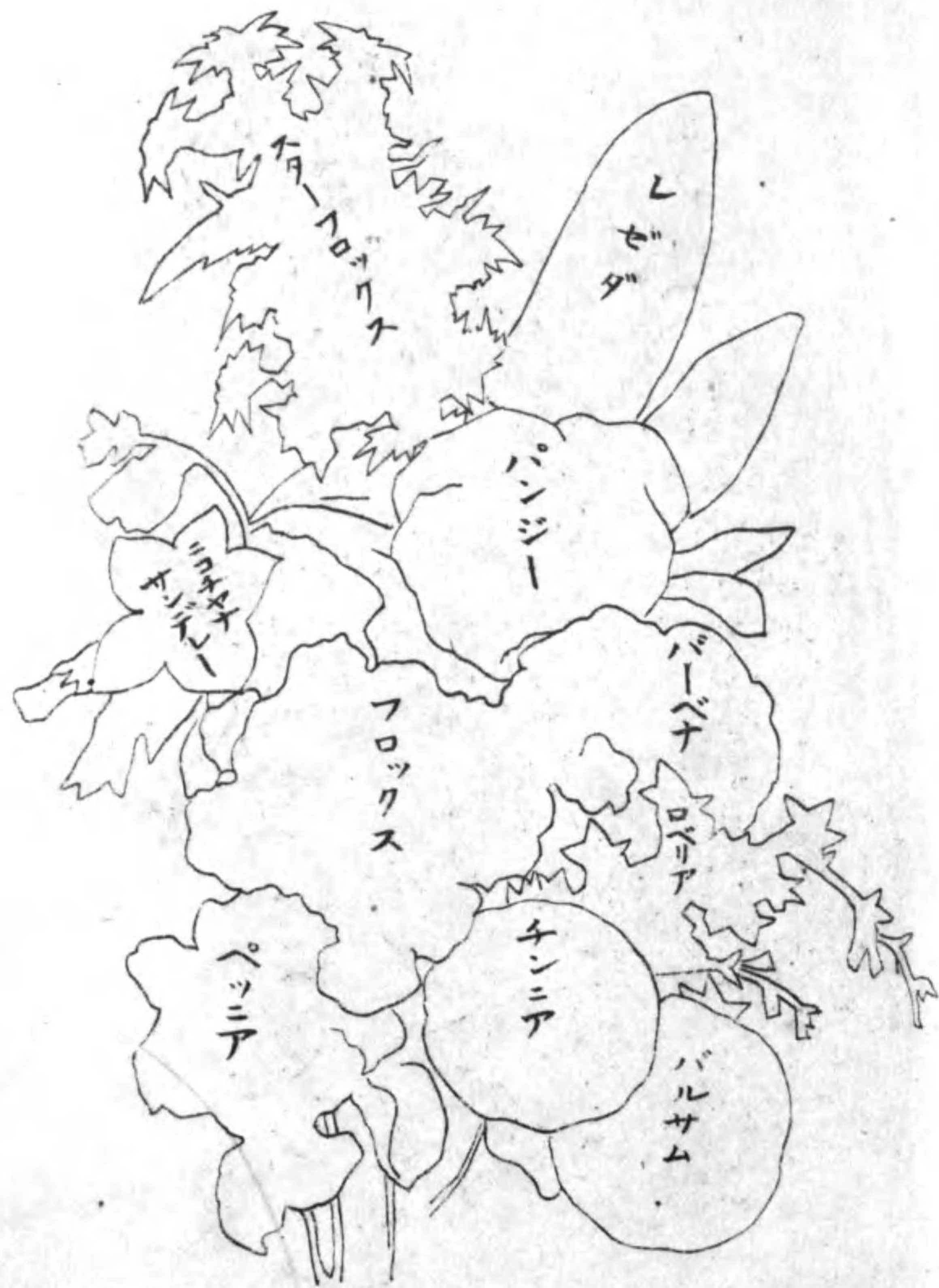


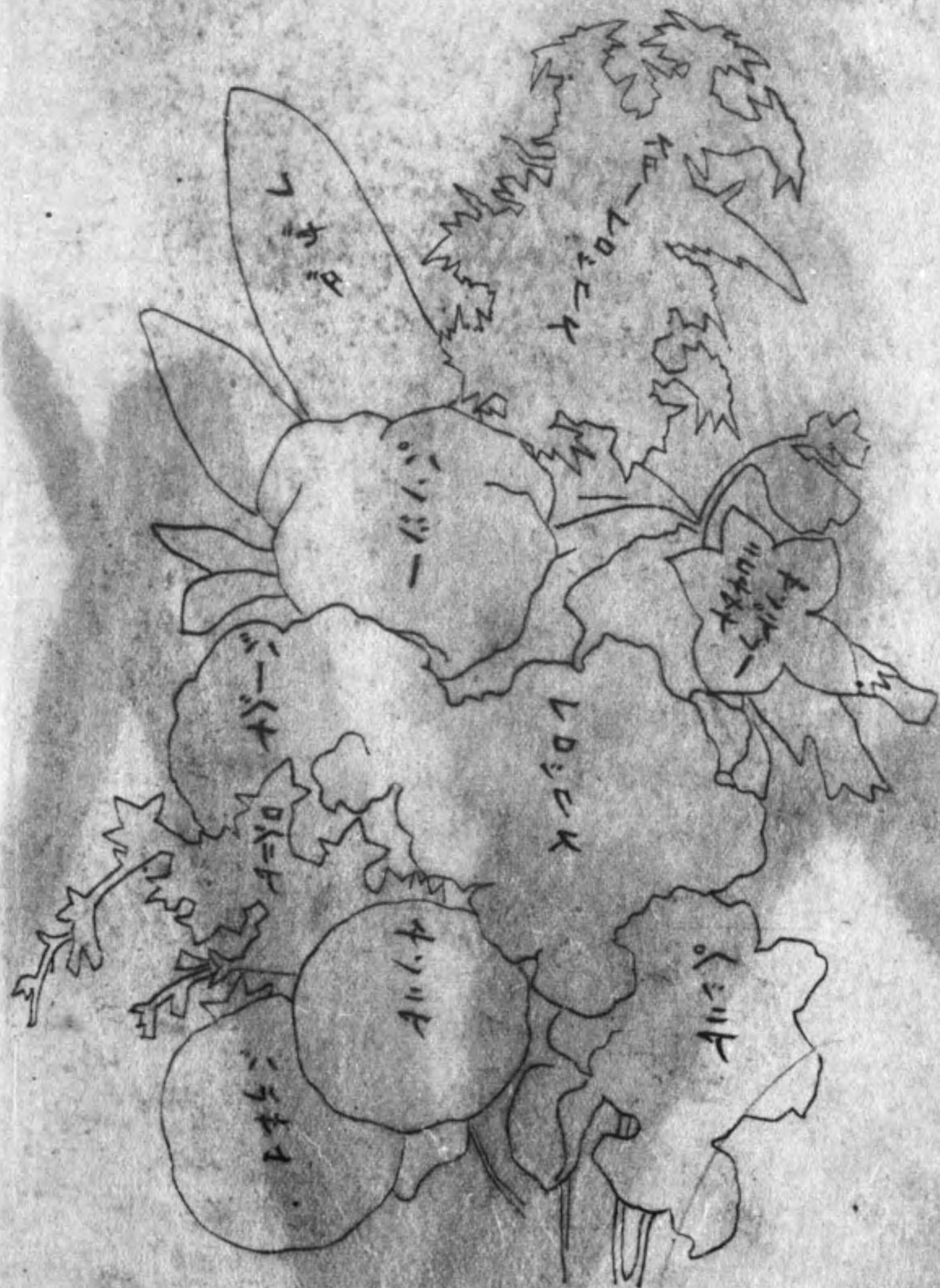


トリトマ

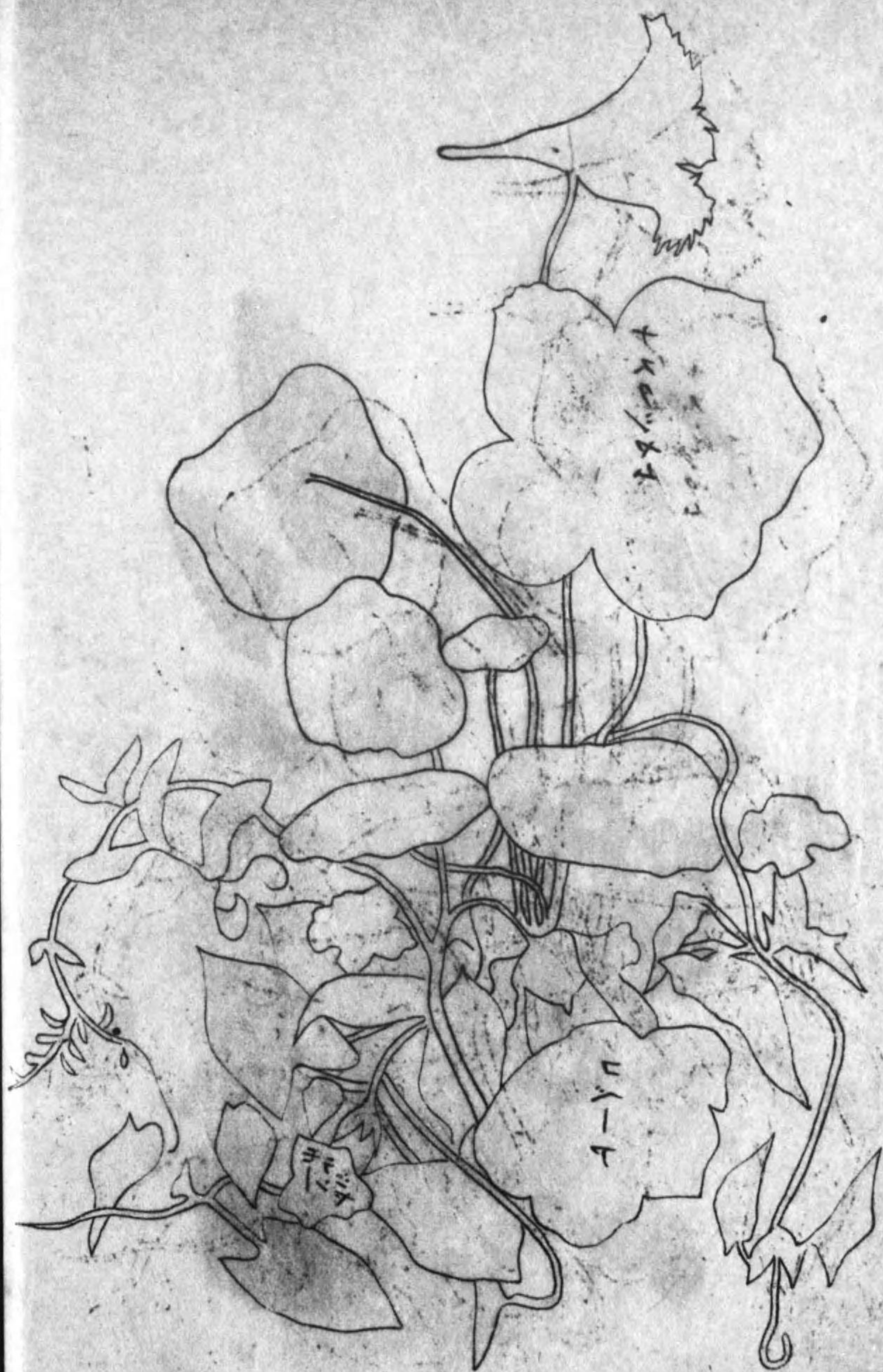
Tritoma













はたしん



西洋草花

康樂園主人著



(一) 培養土の拵へ方

一般の草花に最も適して居りますものは、輕鬆土五分、川砂二分、腐葉土(木葉等)の朽ちて土の様になつたものに馬糞(乾かして粉にしたもの)を各二分、油粕一分をよく混ぜたものであります。普通畑土に川砂、油粕を混じたものでも宜しいのであります。球根類には殊に水拔けのよい土を撰ぶことが肝要であります。其他植物の種類に従つて多少拵へ方が違ひますから特別の場合には其條

で述べることに致します。

(二) 肥料

肥料にも澤山種類があつて、其用途もそれ／＼異つて居ります。先づ何の草花にも効めがあつて、取扱に便利なものは油粕であります。是れは施肥の方法に従つて効き目が相違します。若し粉状で與へれば長く効能を保ちますが、水にとかして腐らしたものは早く利きますが長く効能を保ちません。

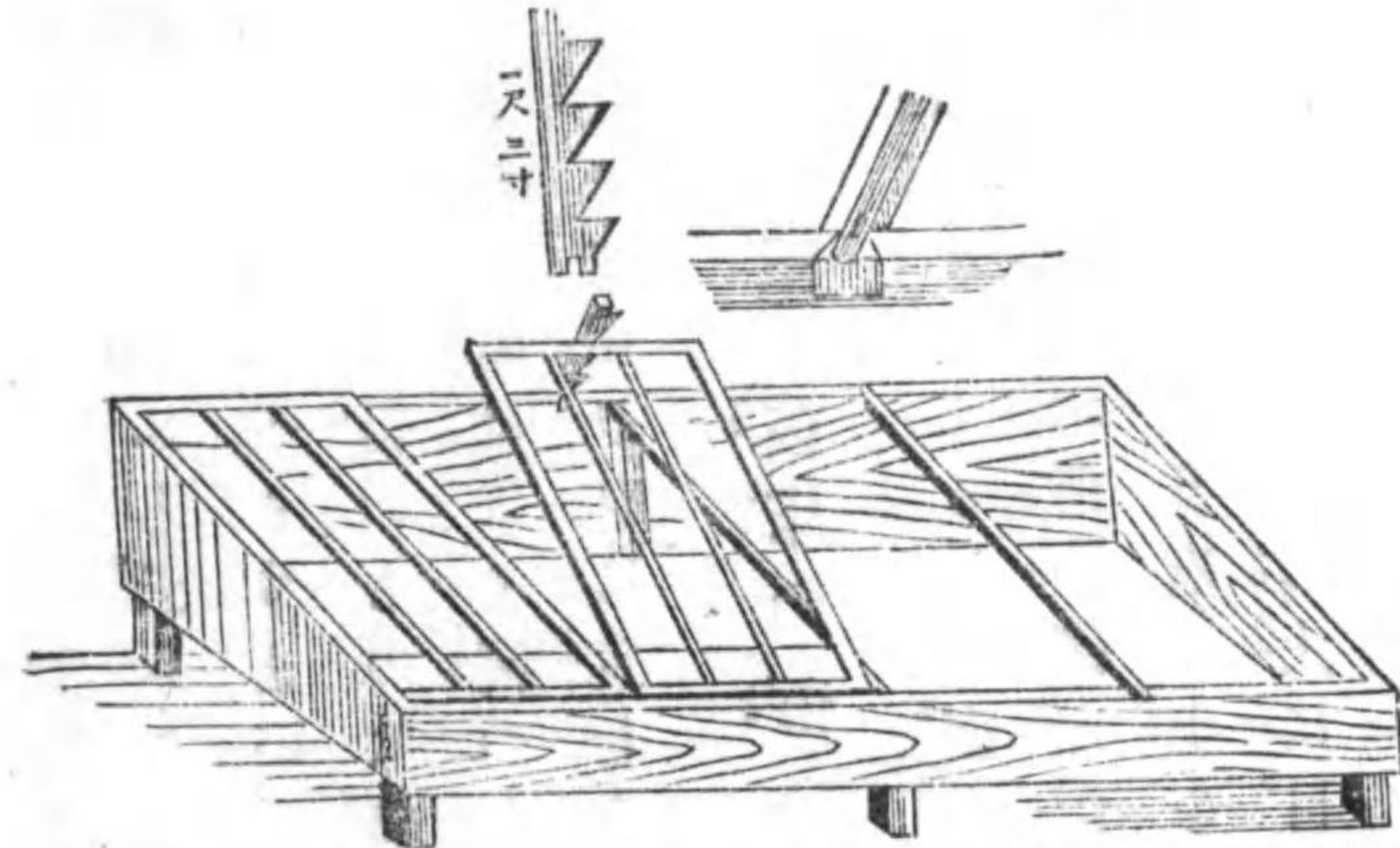
現今人造肥料と云ふものがあります。これは化學肥料で臭氣もなく取扱ひにも亦便利であります。油粕と同様家庭園藝用として備へて置かれたならば大に便利であらうと思ひます。其他人糞は腐熟したものを薄めて用ひます。又厩肥堆肥等は主に元肥と

して施しますが、其製り方が非常に手数が掛り且人糞と共に誰れにでも取扱ふと云ふことが困難であります。之れに就て精しいことは述べますまい。

兎に角大抵のものは前述の油粕と、人造肥料とで間に合ひます。さもない時はよく腐つた米糠の汁流しもとの洗ひ汁、魚鳥の腸汁を薄めて用ひれば宜しう御座います。

(三) 苗床の拵へ方

苗床を設くるには南向きの日當りの良い場所を撰ぶのが必要であります。場所の撰定が出来たならば、東西に幅三尺長さは適宜にして丁寧に其處の土を碎き細かにして、それを四五寸許り盛り上げよく均らし、其上に目の細かい篩で土を篩ひかけ、更にこれを



平に均らし其上を板で軽く押へ付けて
 から、種子を播くのであります。
 温床は硝子障子を被ふたる木框に落
 葉塵芥、厩肥、堆肥等の醸熟物を入れたも
 のでありまして、木框の作らへ方は種々
 ありますが、普通七八分程の厚さの板割
 で、長さ二間幅四尺後部の高さ一尺四五
 寸、前部八寸位の框に作り、其四隅と中央
 に二寸角の一尺二寸許りの足を附け、硝
 子障子を支へる爲に横木を三本渡し、ま
 す、横木は雨水の框内に流れ込むのを防
 ぐために圖の如く上面に溝を設けます。

是れを南向きの日當りの好き地に南方に低く北方に高い方を向
 けて据へつけ是れに四枚の硝子障子を被います而して其障子は
 圖の如き駒で開閉して温度を加減致します。
 冷床は冷たい床と云ふ譯ではありませんが前記の温床に對
 して云ふ言葉で普通の床地よりは温暖なるもので在ります只温
 床の如く醸熟物を入れないだけの事で、木框の作らへ方は同じで
 在ります、大抵の草花は此冷床で苗も作れば花も咲き又寒中寒さ
 を凌がせることも出来る、至て手輕な重寶なもので在ります、著者
 も専門に西洋草花を作つて居りますが、是のみを用ひて効を收めて
 居ります。

(四) 繁殖

草花の繁殖には、播種、分株、壓條、挿木等であります。

(二) 種子の播き方

種子の播方には鉢播、床播、直播の三通りあります。

(イ) 鉢播

鉢播にする物は、主に貴重な種子か或は苗床を設けるに適當な場所がない時等に用ふる法であります。其鉢は種鉢と云つて形は角でも圓でも宜しいのですが、淺い物で底に數多の水抜穴がある物を用ひなければなりません。又種鉢の代りに木箱を用ひても宜しいのであります。其箱は菓子折でも其外淺い物ならば何でも宜し

いのですが最も適當な箱は幅八寸長一二尺深三寸位で底に七八個の水抜穴を開けたものであります。是れに種子を下すには、先づ底の穴を貝殻か鉢又は瓦の小破片等で塞ぎ、水抜けをよくする爲め鉢又は瓦の小破片を少し入れ、其上に砂交りの成るべく軽い肥し氣の無い土を八分目程篩ひ込みまして平にならし其處へ播くのであります。而して其上から種子の隠れる位に細かに土を篩ひかけます。種子によつては土を被はぬ物もありますが、其れは其條に委しく述べることと致します。土を被ひましたらば極目の細かい如露で灌水しますか、又は其鉢を水中に半分程浸し、底から水を浸み込ませる様に致します。此仕方は灌水の爲めに、種子が弾き出される憂が無くて至極安全であります。尚一層丁寧にするには其紙の上に紙か新聞紙で其上を被ひます。尙一層丁寧にするには其紙の上に

更に硝子板(鉢大)を載せて雨の掛らぬ様にして置き、常に程よい濕りを保たせる様にして置けば、數日の中に可愛らしい芽が出ます。いよく發芽がしましたならば新聞紙、硝子板等を取り除いて雨の掛らぬ所に置き、日中は蔭に置きます。

(四) 床 播

苗床へ播く物は其性質が丈夫で移殖の出来る物でなければなりません、種子を下したならば其上から細かい土を篩ひ掛けて後灌水し、それから切藁か菰俵の如きもので被ひます、又は土が乾きました時は、何時でも濕氣を與へるのは申す迄もありません。斯して發芽したならば被ひ物を取り除いて充分に日光に當て四五葉出ました頃之れを移殖します。

冷床或は温床には冬季中でも播種することが出来ます、其法は前の苗床に播のと同一であります、が苗床より安全であります。

(五) 直 播 (まきつけ)

播付とは定地に播付けることで移殖を忌むもの、又は寒暑に余り負けない極丈夫な草花は何れも播付けに致します、先づ目的の地を良く耕して土を軟かにし、細かく碎きて小石等をよく取り除け、水肥を元肥として施し、薄く土を被ひ其上に下種し更に土をかけ、發芽して四五葉出ました頃丈夫な苗を残し、適當な距離に間引きます、花壇に一面に播く時の外は、大抵畦を作つて播くのが宜しくあります、而して播種の日はなるべく曇天無風の日を選びます。

(三) 分株 (ねわけ)

宿根草を繁殖させる仕方と申す、それは春又は秋母株を丁寧に適宜に分け、一度苗床に假植し、二三日蔭にして置けば能く活着します、春ならば直に目的地に植出し、秋ならば其儘凌冬せしめて翌春植出するのであります。
球根類は種子よりも母球の側に生ぜる子球を分けて繁殖するのを普通と致します、是等は皆それ〴〵時期、仕方等を異にして居りますから詳細は其條で述べましょう。

(ホ) 壓條 (とりき)

壓條とは挿木、分株等では活着し難いものに施す法で之に依



れば極めて確實に繁殖することが出来ます、それは先づ成るべく下枝の丈夫なものを撰びて圖の如く土

中に導き、人の如きもので撥ね返らぬ様押へつけて置きます、枝の土中に入る部分即ち發根部には鋭利なる小刀で切り傷をつけ



て置かねばなりません、而して十分活着してから母樹より切り離すのであります。

(一) 挿木(さしき)

挿木とは芽枝又は葉を挿して繁殖せしむる法で、箱なり鉢なり或は床地に砂を混じたる土を盛り平に均らして挿します、挿すべき芽は



下方の丈夫なる新芽の固まつたものを撰び、二三寸の長さに切り取り、切り口は鋭利なる小刀で丁寧に切り直し、葉も少し切り縮めて挿し、其周囲を固く壓へ付け灌水して日蔭とし、而して常に適當の濕氣を保たして置きます。

(五) 苗の移植

鉢又は床の苗が四五葉出ましたならば是れを他へ移植します、其れには一度他の鉢又は苗床に假植して充分強健になつてから定地に植え出すものと、或は直に定植するものとあります、即ち前者は苗が余り小さく、且弱い爲め折角一定の地に植出して、消へてしまふ様なものを移植する方法であります、先づ肥土を盛つた他の鉢、箱(共に播種用)若くは床に行儀よく移植し、直に灌水

して充分根付く迄は蔭にして置き、成長して後に鉢又は花壇に植えるのであります。

園地に植出すには先づ其土地をよく軟げ堆肥、厩肥、其他何でもよく腐熟した肥料を元肥として施し、曇天の日殊に小雨の降る日など最も適して居ります。然しそうばかりも云つて居られませんから、晴天ならば夕刻に限りませぬ、何れの時でも根を傷めぬ様に抜き取り、根をなるべく擴げて植込み、土地が乾燥した時は朝か夕方方に灌水します。凡て移植前苗床に灌水して濕らして苗を取れば猶宜しいのであります。

鉢植は素焼の瓦鉢に貝か鉢の破片で底の穴を塞ぎ水抜けをよくする爲め、鉢又は瓦の細かき破片、疎らい土等を少し入れ其上に輕鬆な植土(土の事は前に述べました)を盛つて植込み灌水して二

三日日蔭に置き、充分根が付て最早大丈夫と云ふ様になつてから日向に移し、成長するに従ひ大きな鉢に植替へます。

(六) 栽培の注意

草花を栽培するに付ての注意も二三ではありません、それく取扱ひを異にして居りますが、今其内で特殊のものを除いて一般の注意を述べましょう。

凡そ草花は鉢植、植付、何れにしても成るべく日當りのよい所で培養しなければなりません、然し夏時は日中の強い光線を遮つた方が好いのであります。

それから灌水は、鉢植ならば日中でも構ひませぬから乾いた時に葉にかゝらぬ様に致します。而して常に鉢内の土面が堅く

ならぬ様に注意して若し堅くなつた時は、直に籠の如きもので
搔き軟げ水拔けをよくせねばなりません。

植付もの、灌水は甚しく乾燥しました時、朝か夕に致せば宜
しいのであります、凡て灌水用の水は二三日汲み置きのものか、
雨水が宜しく汲みたての冷たいのは余り好ましくありません。
肥料は一年草は開花する迄に一二度、其他は時々能く腐熟し
たものを施します、肥料は何がよいかと云ふことは前に述べま
したから参照して下さい。

施肥する時は成るべく曇天の時、土を掘り軟げて施し、其上
へ少し許り土を被ふておきます、其他油蟲等の発生した時には、
直に稀薄の石鹼水又は煙草煮汁、蛋取粉等を撒布して驅除しま
す、近頃大阪帝國興農商會で製る今井殺蟲乳劑も効能があります、

鉢植は同じ場所に餘り長く置ますと、鉢底の穴から根を下ろ
したり、蚯蚓や蛞蝓が発生しますから、時々置き替る方が宜い。
秋も末になつて追々降霜の時期に近づきました時は、戸外で凌
冬するその出来ぬ者は暖い居室、温室或は木框内に取り入れま
す、居室内に入れましたも日光には充分觸れしめなければなり
ません、木框にあつては硝子障子を被ひ快晴の日は一二段駒を
以て朝九時頃から夕三時頃迄開けて置きます、之を閉じました
なら其上に蓆、菰等を厚く覆ひます、灌水は晴天の時一回午前
十時より遅くも午後二時頃迄を適當とします、日向水の生温い
物か又は冷水ならば極寒中は湯を少し混ぜて與へます、斯くし
て四月頃になれば蓆等を除ゐて、温暖なる快晴の日には晝間硝
子障子を取り除きます。

草花に一年草、二年草、多年草(宿根草)の別があります。
一年草とは春季下種して其年に開花結實し、秋になつて枯れるもの。

二年草とは春又は秋播種して翌年開花結實して枯れるもの。
多年草(宿根)とは株が残つて年々開花するもの。球根植物も此内に含まれて居ります。

球根植物とは百合、ヒアシントの如き鱗莖、天竺牡丹の如き塊莖、グラチオラス、クロツカスの如き球莖、イリス、カンナの如き行莖等の總稱であります。

(二) アイコーニア

Eichornia

雨久花科 (多年草)

アイコーニア(英名ウォーター、ヒアシント)は、俗に布袋草と呼ばれて居ります。南亞米利加原産の水草で、珍らしき葉や莖を有つて居りまして、夏期淡紫色の如何にも涼しげな優しい花を開きます。

四月頃株を肥土を盛りました鉢に植込み、浅い泉水或は蓮鉢等の中に入れて育てます。夏分株すれば澤山に殖へます。冬は寒さに堪へませんから温室に入れて圍ひます。

(三) アキレギア

Aquilegia

毛茛科 (多年草)

アキレギア即ち縷斗菜は、殆んど全世界に産する丈夫なる多年草であります。五月から、白紫黄、海老茶、桃色等の一重又は八重の、美しい花を澤山に開きます。

春秋の彼岸に床播とし、三四葉出ました時他の苗床に移植し
まして大きくした後、花壇又は鉢に植ゑます。是れは日向でも
日蔭でもよく成育します。冬は播いた年丈け霜除をしてやれば
宜しい。

播種期は春秋彼岸でも宜しいが、最も宜しき時は七月、種子
採取後十五日目位に播くと宜しいのであります。繁殖は種子及
び春分株をします。

(三) アクロクリニウム *Acrocinium* 菊 科 (一年草)

アクロクリニウムは、濠洲西南部原産の一年草で、貝殻草
の類であります。六月から白、淡紅色の一重八重の實に可憐な
優しい花を開きます。此花を切り取り蔭干にして残して置きま
すと、何時までも其嬌々として、愛らしい姿を失ひません。

種子は四月頃床播にし、二三寸になりました時、花壇又は鉢
植にします。

(四) アグロステンマ *Agrostemma* 石竹科 (一年草)

アグロステンマは伊太利シ、リー島原産の者で、一年性と多
年性とあります。一年性は四月頃花壇に播付けますと、二尺位
に成長して六月頃から淡紅色の櫻花形の優しい花を開きます。
多年性は六七月下種すれば翌春、白、紅、紫等の花を開きます。

(五) アゲラツム *Ageratum* 菊 科 (一年草)

アゲラツムは墨西哥原産の一年草で和名をかつこ蒔と云ひま
す、五六月より白、紫或は淡紅色の花を開きます。種子は四月
頃床播として、四五葉出ました時、鉢又は花壇に植へ時々薄き
水肥を施しますと、よく成育致します。

(六) アスター、

Aster

菊科 (一、多年草)

アスターは和名を翠菊と申しまして、種類は二百種もありま
す、主に清國、北亞米利加原産の一年又は二年草であります。ア
ルプス山に産するアスター、アルピーナ (Alpina) は多年性であり
ます。而して二三尺位に丈高くなるものあれば僅に三四寸で花
を開くものもあります。七八月から純白、紅、紫、桃色、淡紅、藤色、牡丹色、
絞り等の花を開きます。鉢植又は花壇に植ゑ或は切花として何
れも美しく又愛らしい花であります。
春彼岸後(暖地ならば秋播)として霜除を致して置きまして宜し
いのです。床播にして四五葉出ました時、日當りのよい園地に植
ゑ出します。開花迄に一二回施肥すれば美花を開きます。

(七) アドニス、

Adonis

毛茛科 (一、多年草)

アドニスは獨逸原産で、一年草と多年草とあります。一年草
は丈け五六寸で六月より九月頃迄光澤ある梅花形の深紅色の美
はしき花を開きます。多年草の方は四月頃黄色の花を開きます。
一年草は春秋に直播とし、多年草は採種して直に(六月頃)鉢又
は床に播きます。

(八) アナガリス、

Anagallis

櫻草科 (一年草)

アナガリスは、亞弗利加モロッコ原産の一年草ですが、冬温
室で圍へば多年草となります。七月より九月迄濃紅か藍色の
美しき花を開きます。丈け一尺位になります。
種子は三四月頃、鉢又は床に播き三四葉出ましたら他の鉢に
移植し、丈夫にして鉢又は花壇に植ゑます。夏は充分灌水し、時
々薄き水肥を與へます。冬は温室で乾き目に取扱ひます。繁殖

は種子の外、挿木を致します

(九) アリスサム

Alyssum.

十字花科 (一、多年草)

アリスサムは南歐の原産で、一年性と多年性とあります。丈僅に三四寸で、六月頃から黄又は白色の小花が、無数に集まつて開きます。

一年性は三四月頃、日當りのよい園地に播付けるか、床播として移植し、一二回薄い水肥を施します。鉢植としても見榮があまります。開花が終りました枝は切り捨てます。其後から續々新芽を吹き蕾を持ちます。八月頃下種し鉢植として室内の日當りのよい所で育てますと冬開花します。多年性は秋播にしますと翌年四月頃開花します。繁殖は種子の外挿木で行ひます。

(十) アルクトチス

Arctotis.

菊科 (一年草)

アルクトチスは亞弗利加西南部地方に産する一年草で、丈け二尺餘り六月頃から開花します。花は一重の白色で、莖は淡紫色でありますから淡薄として美麗であります。

種子は三月頃床又は鉢播とし、五月頃花壇に植出し開花迄に一二回施肥すればよく成育します。暖地ならば秋下種して宜し

(十一) アルジーネ

Alsine.

石竹科 (多年草)

アルジーネはアルプス山に自生せる多年草で六月頃、緑深き細き葉の間から、撫子に似た白い誠に優しい花を開きます。丈け低く横に擴がりますから花壇の縁植等に宜しい。

種子は春から六月頃迄に床播にし、二三寸の苗となりました時、一度他の床に移植し、後定地に植ゑます。

(十二) アンチルリヌーム

Antirrhinum.

玄参科 (二年草)

アンチルリヌームは(英名 Snappdragon)俗に金魚草と申します、歐洲南部、英國邊原産の丈夫なる二年草で長性と矮性の二種ありま

す。夏中白、黄、紅、牡丹色、淡紅色、樺紋り等の金魚の様な形の美麗な花を澤山に開きます。春秋彼岸頃鉢又は床に播き四五葉出ました時、鉢又は園地に

植え、時々薄い肥料を施せば、秋播は四月、春播は六月頃から秋の末まで開花します。之れは切花としても、又鉢植、花壇の裝飾等にしても可愛らしいものであります。

(十三) アンモビユーム

Ammobium.

菊科 (二年草)

アンモビユームは濠洲原産の二年草で六月頃から十一月迄白

の貝殻草様の小花を開きます、葉莖一面に銀白色の細毛を生じて居る處は一寸他の草花に見ぬ所であります。

春彼岸頃、床播にし後移植します、砂氣の多い土が宜し。秋播いても宜し。

(十四) イベリス

Iberis.

十字花科 (一、多年草)

イベリスは地中海沿岸原産の一年又は多年草で (Candytuft) とも申します。六月頃から白、牡丹色等の花を無數に密生して、丁度花の冠を戴いて居る様に開き、花壇一面に咲き揃ふた處は實に奇麗であります。

一年性は移植を好みませんから春季花壇に疎薄に下種して、二回施肥すれば宜しいのであります。多年性は春秋に、鉢又は床に播き、四五葉出ました時、一度

他の床に植ゑ、後花壇に本植します。但し秋播のときは床植の
まゝ霜除をして凌冬さし、翌春になつて植出します。

(十五) エヒナセア、 Echinacea. 菊科 (多年草)

エヒナセアは、北米原産の丈夫なる多年草であります。丈
二三尺で、夏より秋迄、褪紅色の美しい花を開きます。鉢又
は花壇の裝飾に誠に宜し。

種子は三四月頃、鉢播とし四五葉出ました時、他の床に移植
し、少しく大きくして日當りよき花壇又は鉢に植ゑます。土は
普通の培養土で宜しく、時々薄き水肥を施せば宜し。繁殖は春
季分株します。

エヒナセアとヘリアンサスと交け合はして出ました、Echinacea-He-
lianthusと云ふ種類は丈け二三尺、紅色で花瓣がエヒナセアの如く

垂れ下らず、丈夫なる多年草であります。俗に紅日向葵 (Red-sundoo
wer) と申しまして、甚だ珍種であります。繁殖、栽培法共にエ
ヒナセアに同じ。

(十六) エピヒルム、 Epiphyllum. 仙人掌科 (多年草)

エピヒルムは、伯西爾原産の仙人掌の類で、蝦蛄葉と蟹葉の
二種あります。蝦蛄葉は、葉の縁の刻みが尖り、蟹葉は圓くな
つて居ります。冬期に温室又は木框内で開花します。色は紅と
白で美麗でありますから、冬の花として缺くべからざるもので
あります。

是れは鉢栽培のもので、培養土は軽き土に、砂、腐葉土及び少
量の油粕を混ぜましたもので、水拔けのよいのが最も必要であ
ります。而して割合に小さな鉢に植ゑ、常に乾き目にして培養

します。冬は温室、木框、或は暖き室内(華氏四十度より下らざる所)に入れて、充分日光に當てて置きますと開花します。繁殖は挿木で、春、三寸位に枝を切て砂勝の土に挿し、乾き目にして暖かい所に置けば容易に根を出します。

(十七) エツシユシヨルチア *Eschscholtzia* 罂粟科 (二年草)

エツシユシヨルチア(英名 California Poppy)は北米カリホルニア原産の二年草で、我邦には花菱草と呼ばれて居ります。五六月から白、桃色、黄色の四瓣の菱形の花を開きます。

是れは移植を好みませんから、春秋彼岸に直播にし、時々薄い水肥を與ふれば宜し。

(十八) エーデルワイス *Edelweiss* 菊科 (多年草)

此植物はアルプス山原産の多年草で、學名を(*Leontopodium alpina*)と云

ひます。

是は莖葉全體に、銀白色の細毛を生じ、花は薄き灰白色で、美と云ふよりも其品位の高尙な事によつて、珍重されて居ります。

春季、床に播き三四葉出ました頃、床に移植し二三寸になりましたら、一本づゝ三寸位の鉢に取り、雨水のかゝらぬ涼しき半蔭の所に置き、常に乾き目にし、其儘に致して置きますと、此年は開花しませんで、晩秋までに漸々莖と葉が黄ばんで来て枯れてしまひ、根許り残りますから、鉢を其時から木框内に入れて、冬期中圍ひます。其間は給水は殆んど要りません。

翌年四月に木框より出し、四寸位の鉢に植替ゑて、矢張り前記の通り涼しい所に置きますと、七月から八月まで開花します。

土地植にするのは、實生の翌春冬期中木框内に圍ひたる苗を半蔭の水抜けのよき地に、五六寸の距離に植えます、就中庭園の岩石の間などが宜し。

培養土は砂混りの肥土で水抜けのよきものが適し、常に乾き目に栽培するのが必要であります。

是れは餘り肥料を好みませんから鉢植、土地植共に格段に施肥するには及びません、尤も鉢植は毎春植替へて土を取りかへれば宜し。

實生の翌年よりは冬も鉢植、土地植共に戶外で凌冬します。

(十九) オキザリス Oxalis 酢漿草科 (一、多年草)

オキザリスは一年性、多年性、球根のもの等二百種もありまして、原産地は主に亞弗利加であります。和名を酢漿草と呼び

れて桃色、白、黄色等の花を開きます。

春の彼岸頃床播にし四五葉出ました頃、植出せば夏になつて開花します。球根は春花壇又は鉢に、深さ一寸餘りに植込みます、而して秋、霜が降つたら直ぐに掘り上げて土を能く落し、葉や根を切り捨て、屋内に圍つて置き、翌春分株して又植込むので

す。球根種の内で、苜蓿 (Clover) に似て四葉のもの、手を擴げた様な形の、葉のものは、珍らしいものであります。

(二十) ガイラルチア Gallardia 菊科 (一、多年草)

ガイラルチアは、中央亞米利加及び北米原産の、一年性及び多年性の丈夫なもので、俗に天人菊と申します。六月頃から秋まで、黄若くは黄色に赤褐色の斑のある花を開き、一重と八重

とありまして、一重は多年草、八重は一年草であります。
八重は春彼岸、一重は春秋彼岸に床植にして、後植出してから一二回施肥します、又多年性は春分株して殖やすことが出来ます、戸外で霜除なしに凌冬します。

(二十二) カ、リア、

Caalia.

科 (一年草)

カ、リアは、印度原産の一年草で一名 *Enilia* と申します。可憐な深紅及び黄色の小花を、三尺許りの一花莖に數多開きます。其花の形が傘に似て、其葉は兎の耳に似て居ると云ふので兎耳傘の名があります。

四月頃、花壇或は園地に直播にし、二回程施肥すれば良く成育して、六月頃から開花し、十月まで咲きます。

(二十三) カリオプシス、

Calliopsis.

菊科 (一年草)

カリオプシスは、北米原産の一年草で五六月頃より黄色に蔦色の斑紋ある花を開きます。長性種は花壇に、矮性種は鉢植に適します、栽培至て容易で、三四月頃鉢又は床に下種して、二三寸の苗となりました時、植出すか或は園地に直播にしても宜しいのです、而して一二度水肥を與へれば、成育宜しく美花を開きます。

是れの一種に *Coreopsis* と云ふのがあります、色は黄色で前種より大輪で、多年性の丈夫な草であります。

(二十三) カルセオラリア

Calceolaria.

玄室科 (二年草)

カルセオラリアは、南米主に智利及び秘露原産の二年草で、温室又は木框内にて栽培します。

五六月頃、袋の如き美しくしき花を開きます、故に巾着草とも

呼ばれて居ります、色は白、黄、緋、黒、紅等の斑入り、縁取り等種々ありまして、鉢植として廣く愛せられて居ります。

種子は六月より八月までに、鉢播にします極く細かな種子ですから、乾いた砂と混ぜて播き、土を被はず新聞紙或は吸取紙を、其上に被ひ更に鉢の上に硝子板を載せ置き、温室の冷所か木框に入れ、蔭にして常に適當の濕氣を保たして置き、發芽すれば直に新聞紙及び硝子板を取り除けます。發芽して二三葉出ました時は、培養土を満したる鉢又は箱に、一二寸の距離に行儀よく移植し、木框内に置き日中のつよき光線を葭簣などに避け、又餘り暑氣厳しきときは、晝夜共に木框の硝子障子を取り去ります、然し雨等に打たれぬ様注意いたします、而して四週間程経ちまして、更に前と同じ土を盛れる鉢又は箱に三四

寸の距離に移植し、其まゝ木框或は温室に入れ凌冬せしめ、三月になりまして五六寸の鉢に一本づゝ植ゑまして、木框に入れて置きますと、五月より六月まで開花します、開花中は充分給水を要します。肥料は開花前に一二回油粕汁を與へます。

(二十四) カレンデュラ、

Calendula.

菊科 (二年草)

カレンデュラは、南歐原産の二年草で、和名を金盞花と云ひます、五月末から黄、白、樺或は白に黄の覆輪ある、菊花状の花を開きます。八重は誠に美しきものであります。

春彼岸頃、床播にし四月下旬頃に、定地に植出します。暖地なれば、秋播として差支へありません。肥料は時々薄い水肥を施せば宜しい。

(二十五) カンナ、

Canna.

薑華科 (多年草)

カンナは、印度原産の宿根草で我國で美人蕉と呼ばれて居ります。黄樺、淡黄、赤、覆輪、しぼり等の實に華かな花を開きます。春彼岸過ぎ、根を鉢或は園地に植込み、種子は床播とするのですが、是れは非常に固く其儘播いては、容易に發芽しませんから、一晝夜許り湯に浸して置きます。葉の三四葉出ました時は、植出して一二回施肥すれば、實生のもものは其年の秋から咲き初め、根を植ましたものは、五六月から開花します。冬は寒地では根を掘り上げ、凍てぬ處に貯藏して置かねばなりません。繁殖は種子の外、春期分株を致します。

(二十六) カーネーション

Carnation.

石竹科 (多年草)

カーネーションは、學名を *Dianthus Caryophyllus* と云ひ、我邦では麝香撫子と呼ばれて居ります。南部歐洲原産の宿根草で、一重八

重等何れも美しく、其上に馥郁たる佳香をさへ、有して居りますから、自ら品位も高く、園藝家の愛育する所となつて居ります。鉢植、花壇の裝飾何れにも適し、殊に切花として長く其美觀を失はぬ事は、確に他の花に勝れて居る所であります。三四月或は八九月頃、床又は鉢に下種し、四五葉出ました頃他の鉢、箱又は苗床に一度移植し、一寸餘に成長致しました時一本づゝ鉢又は目的の地に植えます。但し秋播の場合には、苗床のまゝ霜除して凌冬させ、翌春植出します。定植する所に腐熟した厩肥等を元肥として施し置けば更に宜しいのです。肥料は開花するまで、油粕汁を二三回與へれば宜しい。カーネーションの如き有香の花を開くものは樹勢の弱りしときの外、餘り人糞を與へぬ方が宜し、人糞を與ふれば樹は旺勢

となりませんが花の香が少なくなりす。
春播は其年の十月、秋播は翌年五六月頃から開花しますが花は二年目が最も良いのです。四季咲は春秋の二季に咲きます。繁殖は種子の外、春秋に砂交りの地に挿芽をするか、四月及七八月頃壓條を致します。

カーネーションは左の五つに大別致します。

Topi-Chor (Picotte) 是れは鉢栽培に最も適し、丈け二尺五寸位で、花は八重で多く二三色が混じつて覆輪筋入、絞り等になつて居りまして、瓣は丸く甚だ大輪で實に美麗でありますから、多くのカーネーション中、最優等種のものであります。下種して翌年から咲きます。

Margarete 是れは最も多く賞玩されます種類で、花は八重の

切咲であります、美にして且香氣も高く、一季咲と四季咲の二種あります。丈けは長性は一尺餘、矮性は五六寸であります。

Chabaud 是れは前種を佛國で改良しましたものであります、

丈け矮く七八寸、花は八重の大輪で、花莖長く且丈夫であります。而して四季咲なれば、花期も永く誠に美しいものであります。

Remontant (Perpetual Carnation) 即ち四季咲種で、温室内ならば冬季

中でも開花します、長性と矮性一尺乃至三尺とありまして、花は八重で、色鮮かに佳香があります、而して幹が木立なので
Tree carnation)とも申します。

Land-nelke (Clove-Gilly-Flower) 花は八重で、一季咲と四季咲とあり、

丈は一尺位にて美しく香氣の高い種類の一つで、花壇植に宜し。

Guillaud-Nelke (Christmas carnation) 四季咲でありますが、クリスマス
の頃に最も多く咲くので此名かあります。花は八重で美はしく
香ひも高くあります。

Tyroloer-Alpen-Nelke

是れは垂れ下る性ですから鉢植にして、バ
ルコン等の手欄の裝飾として誠に美麗で、香氣もあり、花も一
重と八重とありまして、色鮮かであります。

カーネーションに就て少しばかり各國のお話を記してみまし
やう。

カーネーションの學名を *Dianthus caryophyllus* と申しますが、是は神
の花と申す意味でありまして、古代の希臘人が此花の匂いが
佳いのを稱へてかく命名したと申すことでもあります。嘗て千
二百七十年佛蘭西王路易九世が十字軍を率ゐて、阿弗利加に

参りました時に病に罹つた兵士を慰めやうと思ひまして、折
から今を盛りと咲き亂れたる野生のカーネーションを採つて、
兵士に與へましたところ、兵士達は馥郁たる此美しい花の匂
ひを嗅いで病を忘れ勇氣百倍したと申します。是れが佛國へ
持ち歸られましたのが恐らく現今歐洲に野生するところのカー
ネーションであらうと申すことでもあります。で此花を佛蘭西
語で *Deilles* と申しますが是は此の路易九世が名づけたのである
と、一史家は申して居ります。

此頃からカーネーションは盛んに栽培され、上下共に愛して
居りましたが、殊にブルボン家時代にはカーネーションの栽
培書が発行されました。軍隊では此花を愛又は敬意を表する
時の贈り物として、將卒の間に珍重されました。色は深紅の

ものであります。

千七百九十三年の頃には、佛蘭西の革命者が罪定まつて、今や刑場の露と消へんとする最期に、必ず此赤色のカーネーションを、手に持つたと申します。

英國では十六世期頃に發達して、エリサベツト女王の園藝家は

ポーレン國より美しきカーネーションを得ました

パーキンソン氏は千六百二十九年に已に五十種の變種を集めました、大なるものをカーネーション、小なるものをヂリー

フラワーと名づけました。

此時代に上流社會の交際界では、此花を最も珍重しまして、高價なる裝飾物の一つに數へました、一つのカーネーションは、一バウンドの價を以て購はれ、デボンシイヤ公爵夫人は、祝

祭の一花環に、カーネーションを用ひて、千バウンドを拂つたと申します。

○白耳義では十七世期中頃に、自生して居るのを發見しました

此頃に石炭坑夫が非常に此花を愛しまして、最も危険なる彼等の仕事を終へて樂しき我が家に歸ります時に、一番に此愛らしき香氣高きカーネーションの花を見て、終日の疲れを癒やし、大なる慰めと希望とを得て、水を灌ぎ汚れたる葉を洗ひなどして、益々美しくなるのを喜びました、此坑夫ばかりでなく、一般の勞働者に愛され、何處でも愛の紀念、平和の印として、迎へられました。

伊太利でも非常に此植物は愛されまして、此花を國祭の裝飾に用ひ又赤色は愛の護符と申しました。

西班牙でも亦此花の赤色なのを珍重しました。

獨逸では十七世期中頃になつて、愛される様になりまして、詩人は此花の容易に凋まぬを稱へて、友情の紀念と唱へ、チューリングゲンでは盛に愛育されましたが、佛蘭西や白耳義の様に、平民の間には餘り、持離されませんでした。今は非常の流行を極めて居ります。

この様にカーネーションは、何處の國でも非常に愛されまして、只今は澤山の珍種が出来ましたが、此隆盛を來たしましたのは、佛蘭西殊に里昂の園藝家の力であると申します。

(二十七) カンパニユラ、 Campanula 桔梗科 (一、二、多年草)

カンパニユラは主に歐洲及び亞細亞原産の一年、二年及び多年性のもので其種類二百種餘りあります。本邦で多く普通に栽

培されて居りますのは *C. Medium* (英名 Canterbury Bell) と云ふ伊太利産の大夫な二年草で、風鈴草とも呼ばれて居ります。白紫挑色、絞り等の一重八重の鐘状の花を開きます。切花としても、花壇の裝飾としても、何れにも奇麗であります。

春秋、彼岸頃床播にして四五葉になりました時、一度他の床に移植し、大きくなりましてから花壇に植出し、二三度施肥すれば、二年目の五月頃から開花します。

(二十八) キプソヒラ Gypsophia 石竹科 (一、多年草)

キプソヒラは露國タウリエン原産の一年性及び多年性で、六月頃から高さ四五寸より二尺位にて白、淡紅色の可憐な花を開きます。鉢植にも致しますが園地に植へ又は切花として他花のあしらひに最も良いものであります。

四月頃、床播或は直播とし一二回施肥すれば宜し。

(二十九) ギリア

Gilia.

花 苧 科 (一年草)

ギリアは、北米カリフォルニア原産の一年草で、高さ一尺位、花は五瓣で、直径七八分、色は花の心が濃紫で、瓣先は碧色のぼかしになつて居りまして、可愛らしい花であります。

三四月頃、定地に直播すれば五月より七月まで咲きます。

(三十) クラーキア

Clarkia.

柳 葉 菜 科 (一年草)

クラーキアは、カリホルニア原産の一年草で、六月頃から、夏の間白、紅、桃色等の奇麗な花を澤山に開きます。

四五月頃、園地に疎薄に播き付け、密生しました所は間引き、て、一二回施肥します。移植は餘り好みません。

(三十二) クレオメ

Cleome.

白 花 菜 科 (一年草)

クレオメは、亞米利加及びアフリカ原産の一年草で、水蝶花と云はれて居ります。四月頃床播とし、四五葉出ましたら園地に植ゑ出しますと、薄紫を帯びた桃色の胡蝶の如き花を、段々に咲かせます、而して秋まで絶へず美しく開花します、丈け三四尺になりまして、栽培至て容易であります。

(三十三) コスモス

Cosmos.

菊 科 (一年草)

コスモスは、墨西哥原産の一年草で、夏秋を通じて、白、紅、淡紅、絞り等の美麗な花を開きます。野分の後、凡ての花の枯れ失せました中に、姿を亂して細い、夢の様な緑の葉の間から、咲きこぼれた様は、實に優しく艶なものであります。「クロンダイク」(C. Klondyke)と云ふ新種は、四年前に、康樂園に初めて輸入されました。是は舊金色で頗る珍奇なものであります。姿は前

種に及びません。

春彼岸過ぎから五月頃までに、床播として三四寸になりまし
た頃、目的の地に植ゑ出すか、或は其地に直播にし、開花まで
に二三回施肥し、七八月までに一二回心を摘んで、伸び過るの
を防ぎますと、枝が多く出まして四五尺になつて花を持ちます。

(三十三) コリンジア

Collinsia.

主 参 科 (一年年)

コリンジアは、カリホルニア原産の一年又は二年性のもので、
白藍色の花が咲き、高さ一尺位になります。

三月から五月までにじめくしなない土地に直播とし、一寸餘
の距離に間引いて、一二回薄い水肥を與へますと、六月から七
月まで開花します。又八月頃定地に直播し、霜除をして置きま
すと、翌年五六月に咲きますが、普通一年性として培養します。

(三十四) コンボルブールス

Convolvulus. 旋花科(一、多年草)

コンボルブールスは、一年性と多年性との二種ありまして、前
者は南歐及び亞弗利加の原産で、後者は亞弗利加のものであり
ます、共に少し蔓性なりましたものであります。

一年性は三月頃、床に播き四五葉生じました時、鉢又は七八
寸の距離で、日當りよき園地に植ゑます。又五月頃に直播にし
ても宜し。六月頃から秋まで白瑠璃色、堇色、牡丹色、桃色、縁取り、絞
り等の朝顔形の花を開きます。
多年性は四五月頃、鉢又は床に播き一寸位の大きさになりまし
たら、鉢に一本づゝ取り、育つに従ひ大きな鉢に植替へて、日
當りのよき所に、晩秋まで置き、冬は木框内に入れて置きます
と、二年目の晩春から淡紫色の花を開きます。

肥料は何れも、油粕其他何でも時々施せば宜し。一年性、多年性共に栽培は容易であります。多年性は毎年冬は木框内へ圍ひます。

(三十五) ゴーデチア

Gotia.

柳葉菜科 (一年草)

ゴーデチアは、カリホルニア原産の一年草で、丈が一尺位、六月から九月頃まで、白、黄、絞り等の優美なる一重の花を開きます。種子は三四月頃、鉢又は床に播き、五月頃園地又は鉢に植出し、一二回施肥すればよいのです。

(三十六) ザポナリア

Saponaria.

石竹科 (一、多年草)

ザポナリアは、一年性と多年性とありまして、一年性は伊太利カラブリア原産、多年性はアルプス山及び獨逸原産のものであります。

一年性は三四月頃園地に直播にしますと、丈け五六寸で、可愛らしい花が五月より七月まで咲きます、色は白及び赤の二種であります。

多年性は六月頃、床播にし後ち園地の岩石の間などに植ゑますと翌年五月から七月まで開花します、色は赤であります。獨逸原産の多年性はザポナリア、オフイチナリス (S. officina) と申しまして、栽培法は前の一年性と同じで、色は櫻色八重咲であります。此草の葉か莖で手を洗ひますと、石鹼の代りになると云ふので、シヤボン草とも云はれて居ります。

多年性の繁殖法は、種子の外、春に分株するのであります。此草は一年及び多年性共に栽培容易であります。

(三十七) サルピグロツシス

Salpiglossis.

科 (一年草)

サルピクロツシスは智利原産の一年草で、六月から秋まで、紅、黄、白、紫、桃色、鳶色等の美麗な花を開きます。

四月頃、極く疎薄に直播とし、七八寸の距離に間引き、一回施肥しますと、丈け二三尺に成育して開花致します。是れは乾燥した土地を好みます。

(三十八) サルビア

Salvia.

唇形科(一年草)

サルビアは、主に北米原産で、多く一年草であります。六月頃から燃ゆる様な深紅の、愛らしい花を開きます。

四月頃、床播とし、四五葉生じましたら定地に一尺位の距離に植出します。又鉢植にしても宜し。

墨西哥原産の *Patens* と云ふのがありますが紫色大輪の二年性で花が大きくて珍らしいものです。是れは温室か木框でなければ

凌冬しません。

(三十九) シザンザス

Schizanthus.

茄科(一、二年草)

シザンザスは、智利原産の一年或は二年草であります。主に秋季定地に疎薄に直播にしますと、五月から八月まで葡萄色淡紅色、白等の蝶形一重の花を開きます。

(四十) シノグロツサム

Cynoglossum.

紫草科(一、二年草)

シノグロツサムは葡萄牙原産の一年或は二年性で、白、紫等のフオーゲツト、ミ、ナツトに似た愛らしい花を開きます。

春彼岸頃、床播にして四五葉出ました頃植出すか、又は定地に直播にして一回施肥すれば七月から九月まで開花します。又九月頃下種して霜除の下に凌冬せしめますれば、翌春五月頃に開花し初めます。

(四十二) シネテリア

Cineraria.

菊科 (二年草)

シネテリアは、阿弗利加カナリー島の原産の二年草であります。開花して、其色の美麗なことに、實に眼の覺める許りであります。花期は普通四五月で、花に一重八重花色に白紅、堇桃色、海老茶、藤色、絞り、覆輪等數十種ありまして、實に艶麗であります。

種子は六月から九月頃までに、極く軽い土を満たした鉢又は箱に下種し、土は決して被はず、發芽するまで新聞紙か吸取紙を被ひ、硝子板を載せて木框内に入れ、濕氣を與へ、蔭にして置きますと、五六日で發芽します。發芽したならば紙、硝子板等を取り除き、風通しをよくし、強い日光を遮り、葉にかゝらぬ様に灌水し、三四葉出ました頃他の箱又は鉢に、軽い肥土を盛り、之れに移植します。稍成長してから、二寸五分乃至三寸

位の鉢に植ゑ開花期まで、一ヶ月に二回程、薄い腐熟した油粕汁、燐酸肥料等を施し、成長するに従ひ大きな鉢に植ゑ替へ、五六寸の鉢に止めます。成長後も強き日光は遮り、雨などに打たれぬ様にし、冬は華氏四十度位の温度の下に栽培致します。

(四十三) シレネ

Silene.

石竹科 (一、二、多年草)

シレネは、瑞西、佛蘭西、英吉利、及び伊太利シ、リー島原産のもので一年、二年及び多年草の三種あります。花は一重と八重で色は白か紅であります。丈が一尺位になります。

一年性は三四月頃定地に直播にしますと七月頃から九月まで開花します。

二年性及び多年性は五六月頃床播にし、後ち定地に植出しますと、翌年五月から九月頃まで咲きます。

(四十三) スカピオザ

Scabiosa.

山蘿蔔科 (一年草)

スカピオザは東印度原産の一年草で、本邦の山蘿蔔に似て居りまして、色は白、紅、淡紅色、黒紅などで、一重八重がありまして、長性は二三尺、矮性は七八寸であります。

三月床播にし五月植へ出しますと、六月から秋まで奇麗に咲きます。肥料は開花までに、二三度與ふれば宜し。

(四十四) ストックス

Stocks.

十字花科 (一、二、多年草)

ストックスは英名で、學名を *Matthiola* と云ひ、俗に紫羅欄花と云ふて居ります。原産地は地中海沿岸、南アフリカ及び亞細亞の西部で、一年二年、多年草の三種あります。

一年草は三四月頃、二年草は八九月、多年草は五六月頃床に薄く播いて、四五葉出ました時、鉢又は園地に植ゑます。土は

軽い水拔けのよいものが宜しい。肥料は腐熟したる牛糞か雞糞が適して居りますが、其他油粕でも差支へありません。多年性は春の終りに挿木にて殖します。

Goldlack は英名を *Wallflower* と申しまして、矢張り地中海沿岸に産する一年草で、ストックスによく似て居りまして、栽培法も同様であります。

(四十五) セネシオ

Senecio.

菊

科 (一年草)

セネシオは、亞弗利加原産の一年草で長性と矮性の二種ありまして、七月より九月まで白、紅、紫色等の八重の艶麗な花を開きます。長性は園地に、矮性は花壇の縁植及び鉢植に適します。長性は丈が一尺餘、矮性は五六寸であります。

種子は春、鉢播或は床播にし五月頃定地に植出します。

(四十六) ゼラニウム

Geranium.

牻牛兒科 (多年草)

ゼラニウムはペラーゴニウムの一種にて學名を、*Pelargonium zonal* (Scarlet) と申します。南部亞弗利加の原産で、本邦にては天竺葵又は西洋葵と呼ばれて居る宿根草であります。白、淡紅、緋、桃色、濃紅、ばかし、絞り等の鮮麗な花を四時絶へず開きます。花に一重八重があり、葉に赤褐色、白色、黄色等の斑入りのものもありません。鉢或は園地に植ゑて愛養され。又切花にも適してをります。栽培は至て容易く、常に日當りをよくし、土は乾き目の方が宜しく、時々薄い肥料を施し、夏は充分に灌水します。秋より春までは、終始乾き目に致して置きます。枯葉及び咲き終りました花莖は絶えず摘み去り、根が鉢内に充滿しました時は植替へる等、少しく世話をすればよく成育します。秋季剪定して形

を整へ、木框で凌冬させます。繁殖法は、普通九月頃、砂混りの床又は鉢に挿し、日中は蔭になし、特に雨を防ぎ、夜は必ず露に當てるのであります。變種を得るには、春又は秋、種子を鉢播にし二三葉出ました時、他の肥土を盛つた箱か鉢に植替へ、稍成長しましたら、三寸位の鉢に植ゑます。冬は木框、温室内或は暖き室に入れ寒氣を防ぎます。

(四十七) セロシヤ

Celosia.

苋

科 (一年草)

セロシヤは印度原産の一年草で、雞冠草と申して居ります。雞冠けいとう、紐けいとう、鎗けいとう等ありまして色は白、黄、紅、淡紅、牡丹色等であります。三四月頃床播にし、五月定地に植出しますと、七月より九月

まで開花します。時々薄肥を與へれば宜し。雞冠けいとうの矮性種 *C. cristata* 英名 *Cockscomb* は丈け僅に三四寸なれば鉢植又は花壇の縁植に適します。

(四十八) センタウレア *Centaura* 菊 科 (一、二、多年草)

センタウレアは歐洲原産で、一年性(二年性ともなる)と多年性とありまして、五月頃から白紫淡紅等の矢車形の花を開きます。故に矢車草とも申します。切花に適して愛らしい花であります。丈けは長性種は三四尺、矮性は四五寸です。本邦で普通に栽培されて居るのは *C. Cyanus* (英名 *Cornflower*) と云ふ一年草のものであります。

種子は春彼岸過ぎ園地に直播にし、餘り密生しましたならば五六寸の距離に間引き一二度施肥すれば良く成長します。暖地

ならば秋播が宜しい。

多年性は春秋に床播にし、四五葉出ました時他の床に移植し、丈夫にして植出します。但し秋播の時は床のまゝ凌冬せしめ翌春植出すのであります。

(四十九) タゲエテス *Tagetes* 菊 科 (一年草)

タゲエテス(英名 *Marigold*) は、墨西哥原産の一年草で、長性種と矮性種とあります。長性種は万壽菊と云ひ、丈け三四尺、花は黄又は鬱金色の八重の大輪で色、頗る鮮かで、切花として美しく、且つ丈夫であります。矮性種は孔雀草と呼ばれて居ります、丈け五六寸で、花は一重と八重とありまして、色は黄か或は黄地に天鵞絨様の鳶色の斑があります。前種よりは小さくて鉢植、花壇の縁植に宜し。

栽培法は二種共同じことで、四月頃花壇に直播にして間引くか、又は床播にして二三寸になりました頃、鉢又は花壇に植出し、一二次水肥を與へます。

(五十) ダーリア

Dahlia

菊

科 (多年草)

ダーリア即ち天竺牡丹は、墨西哥原産の多年草で、我國にも古くから渡來して居りますが、茲に申すダーリアは、近年舶來の新種でありまして、其花の艶麗なる、色数の夥多なることは、實に驚くの外ありません。而して其栽培の容易なると、花期の永きことも亦數多の草花中第一であります。歐米諸國は勿論、我邦でも近來非常の流行を來たし、年々珍種を出しまして、初夏より秋、降霜の頃まで、花壇の裝飾とし或は切花として缺くべからざるものであります。

栽培法

栽培法は實生と球根植込の二法があります。前者は變種を作り後者は種類を保存するに適します。

(イ) 種類

種類は實に澤山ありますが左の四種を主なるものと致します。尤も是等は花の咲き方を申しますもので、何れも *D. variabilis* から出たもので色は白、赤、黄、紅、紫、桃色、淡紅、覆輪、絞り、ぼかし等現今七百餘りあります。

Decorativ. 即ち「菊咲」

これは普通種で單瓣と重瓣とあります。此種の内に「Colossal」と云ひ一重で、花の大き直徑五寸位に咲くのがあります。又デコ

ラチーブの最新種で一九〇五年に和蘭で出ました「和蘭巨大種」と云ふのがあります、是れはダーリア中、最も偉大なる花で、咲初めは直径六寸餘りで、一重半と八重とあります。

Cactus. 即ち「よれ咲」

是れは瓣が細くよれて居ります、一重八重がありまして、八重は年々新種が出来ます。八重カクタスは千八百七十二年に墨西哥より、和蘭ウトレヒト(地名)近傍ユトフアスのヴァンデンベルヒ氏が、球及び種子を輸入致しましたが、其球は途中で腐敗して、漸く只一球が無事に着きました、そこで是れを培養致しましたところ偶然、八重の「カクタス」が咲きました、これが「カクタス」の最初であると申します。其後千八百七十四年に是の「カクタス」は佛國の一大園藝家に賣られました、後ち間もなく今

日有名なる彼の和蘭のアントローゼン社が買戻したと申すこと
であります。

Collerettes

コルレッツ咲

此種は一九〇二年佛國で出来たもので葎と瓣の間に小さな瓣があつて美しい珍種であります。

Gloria

グローリア咲

是は千九百四年獨逸で初めて出ましたもので、八重咲のアネモネに似て居ります、亦珍らしいものであります。

(ロ) 播種法

三月から五月中旬までに、霜除をした床或は木框内へ下種し、三四葉出ました頃、他の苗床に三寸程の距離に移植して、而し

て薄い水肥を一回、葉にかゝらぬ様に施し、三四寸に成育しました時に、鉢又は目的の地に植ゑ出します。

六八

(六) 球根の植込み法

球根は三月下旬から五月中に植込みます。著者の實驗に依れば、未だ芽の出で居ないものを、直に目的の地に植込むよりも、始め假に苗床に植ゑるか、多數の時には日當りのよい處に並べ、少し土を被ひ、適宜の濕氣を保たせて置くか、何れにしても少し發芽してから植込みました方が安全と思ひます。而して株を分けないものより、分けて植込んだ方が、後に至て好結果を得ます。株の分け方は「繁殖法」にあります。

植込む時は花壇でも、畑畑ならば三尺幅の畦に植ゑます(でも、

日當りのよい地を撰みまして、深く耕し土を軟げ、水抜けをよくします。距離は三尺から四尺で、深さ八寸位の穴を掘り、堆肥、厩肥のよく腐熟しましたものを、元肥として入れまして、少しく土をかけます。是れは肥料が直接に球に觸れぬ様にすゝめでありませぬ。斯くして植込みましたならば、芽だけ出して球は全く土中に在らしめ、灌水して一兩日、蔭にして置きます。

(三) 土質及び肥料

土質は如何なる處が適するかと申しますと、水抜けのよい肥沃な處ならば大抵の地で成育しますが、表層の深い壤土の地が最も宜しい。然し少々の砂地や瘠地でも、充分に肥料を施せば出來ます。

あります。鉢は始め四寸鉢を用ひ、成長するに従ひ大きなものに
取替へます。容積の狭い鉢内で栽培するのですから、水や肥料
は充分に與へ、日當りの良い處に置かなくてははいけません。七
月頃から咲き初めます。

(ト) 繁殖法

種子の外、春挿木、分株をします。
挿木は強健な芽、髓の充實したるものが宜しく、空虚のものは着
きません。を撰び、二三寸の長さに節の所から切り取り、鋭利な
小刀で切口を丁寧に切り直し、日蔭に挿して適當の濕氣を與へ
て置きますれば、容易に根が着きます。
分株は數個着いて居る塊根を、一つくりに必ず莖の一部分が

附いて居る様に丁寧に分けます。莖が少しでも着いて居らない
と、球ばかりでは決して發芽しませんから注意を要します。
其他接木を行ひますが、普通に致しませんから申しません。

(チ) 凌冬法

秋になつて葉や莖が枯凋しましたならば、根を掘り上げ、家
根の下で良く乾かし、少數ならば箱に藁、紙殻等を入れ、其内
に埋めて暖かい濡れぬ所に置きますが、多數のときは土窟、物
置等、其他雨水の浸み込まぬ處に、乾いた藁、落葉、土等を厚く被ふ
て圍ひます。何れにしても凍らぬ様に注意して置く事が必要で
あります。東京邊の氣温の地方では植ゑたまゝ厚く土を覆ひ掛
て置ても差支ありません。

本邦へは何時頃に輸入されましたか未だ不明であります。
ダーリアの原産地は墨西哥でありまして、一七八四年に同國
キユダト植物園長ウインサント、セルバンテス氏が発見しまし
て、之れを同年西班牙國首府マドリツト植物園長にて僧侶カバ
ニユ氏へ寄贈しました。之れが歐洲へ初めて輸入されました
のであります。而して一七九〇年十月に一重の花が開きました。
同氏は此の珍しい新花の圖及び報告を一七九一年一月に發表
しまして、此植物の名を、植物分類學大家リンネ氏の愛弟子、
ール氏の名譽のため、**ダーリア**と命名しました。一八〇三年に
當時伯林の名高い植物學者ウイルデノー氏は、此花に同氏の親

友にて當時、露國大學博物學教授ゲオルギナ氏の名を取り、**ゲ
オルギネ** (Georgine) と命名致しました。

西班牙では、此珍花の傳播せんことを防ぐ爲め、輸入後十三
年間も同國エスクリアル王園に嚴重に保護しましたが、其時同
國ドン、マルシア侯の勸告に従ひ、漸く一八〇二年に佛國巴里
植物園へ分與されましたが、同園では溫室内に此植物の爲め、格
別な場所を設けて培養致しましたが、不幸にして枯れました。
英國へは一七八七年に、同國ブート侯爵夫人が、西班牙駐在
英國公使夫人より種子を寄贈されましたが、開花せず枯れま
した。其後一八〇四年に當時、英國園藝熱心家ホルランド嬢が
原産地から取り寄せました。

獨逸では一八〇四年に有名な獨逸植物學者アレキサンドル、フ

オン、フムボルト氏が佛國植物學者ボンブラン氏と共に原産地に参りまして、海拔五千六百尺のバスクアラ山の砂原で、ダリアを採集し、其球根を種子と共に持ち歸り、當時の柏林植物園長オットー氏に寄贈しました、其花は一重にて、赤地に黄を帯びたものであります。

同國へは之れより先き已に一八〇〇年ドレスデンに於ては他國より輸入して居たとの説がありますけれど、これは判然として居りませぬ。一八〇六年には獨逸ライフチヒ府園藝家ブライテル氏は百三種を作り出しましたが、皆一重でありまして各國は盛に賣出しました。

此珍花は大分もて囂されましたが、何分一重の爲め、左程に愛せられませんでした。種々交配の結果、一八〇八年獨逸カ

ールスルーへ府の、園藝家ハルトウヒ氏が、苦心栽培して八重の花を作りました、之れが此花の八重の最初であります。此時代よりダリア栽培隆盛期に入ります。

一八三〇年より同三六年まで、英國はダリア栽培に於て最も發達して居りましたから、獨逸でも英國より新種を取り寄せ、改良に勉めまして一八四〇年には英獨兩國に於て千三百七十六種の夥多の種類を作り出しました。最初から現今までの色數は恐らく四千を越へると申すことあります。

而して近年は其流行益々盛んになり、各國競ふて年々多くの新種を出して居ります。

(五十二)チギタリス、

Digitalis

玄參科

(二、多年草)

チギタリス(英名 Foxglove)は、歐洲原産のもので、二年草と多年

草とあります。丈け三四尺になりまして、五月頃より七月頃まで、白紫絞り等の花を開きます。

秋季、園地に直播にし、密生せる處は間引きて、一尺位の距離にし、薄き水肥を二三回與へれば宜し。

(五十二) チンニア

Zinnia

菊

科

(一年草)

チンニアは墨西哥原産の丈夫なる一年草で六月から秋まで白、赤、桃色、黄、橙、牡丹色、絞り等の一重八重の美花を絶へず開きます。其花期の長く、切花として良く保つことは、百日草又は浦島草と呼ばれるのでも知れます。花園の裝飾に適し又、切花には最も美事であります。

四月頃園地に播き付け、發芽し二三寸位になりましたら、一尺位の距離に間引きます。又床播として植出しても宜しいので

あります。而して餘り濕潤でない日當りの良い土地に適し、時々施肥すればよく成育して、三四尺の高さになります。

(五十三) ツニカ

Tunica

石竹科

(多年草)

ツニカは獨逸の高山に原産する多年草で「はり撫子」と云ひます。丈け五六寸にて叢生し、六月頃櫻色の極細かい優しい花を澤山に開きますから、花壇の縁植に誠に適して居ります。種は四月床播にし、丈夫なる苗を定地に植え出しますと、其年の九月頃に咲きます。戸外で凌冬し、春分株して殖やします。

(五十四) デイアントウス、バルバツス

Dianthus barbatus

石竹科

(多年草)

是れは佛蘭西原産の丈夫なる宿根草で、和名を「ひげ撫子」又は「美女撫子」(英名 Sweet William) と呼ばれて居ります。五六月頃、白、紅、桃色、絞り、縁取り、其他種々の色の艶麗なる花も開きます。一重八重

とありまして切花に最も宜し。

春秋に床播として後、園地に定植すれば容易に成育しまして、春播は其年、秋播は翌春に開花します。株が古くなると姿が醜くなり、花が少くなりますから、毎年播種して新らしい株を作つて置く方が宜し。

(五十五) デイアントゥス、ブルマリユース、Dianthus Plumarius 石竹科 (多年草)

これは、東部歐洲原産の宿根草で、獨逸では Feder nelke と申し、英國では Feathered Pink と稱へて居ります。桃色、白、紅、絞り等の一重八重の佳香を有する、優しい花を澤山に開きまして、本邦の撫子に似て居ります。

種子は、春秋彼岸頃床播にして、本葉が三四葉出ました頃、二寸餘りの距離に他の床又は鉢に移植し、三寸餘りの苗になりました時、園地に植出します。秋播のときは、床にあるまゝ霜除をして凌冬させ、春になつて植出します。時々薄い水肥を與へますと、よく成育して、春播は其年の秋から、秋播は翌春から花を開きます。

九月頃、挿木又は分株してよく繁殖します。此の方法によれば霜除の手数もなく、よく戸外に凌冬します。

(五十六) デイアントゥスヘツデウイギー Dianthus Heddewigii 石竹科 (一年草)

ヘツデウイギーは、支那原産の石竹を、露國の一園藝家が改良しましたもので、實に其花の奇麗なことを可愛らしいことは他の石竹の及ぶ處ではありません。一重八重があります。色は黒紅、白、紅、薔薇色、牡丹色、絞り、縁取り等澤山にあります。鉢植又は切花に適し、花壇の裝飾に誠によし。

三四月頃、床播にし、五月頃花壇及鉢植に致しますと、六月から秋の末まで咲きます。

(五十七) デルヒニウム Delphinium 毛茛科 (一、多年草)

デルヒニウム(英名 Larkspur)は歐洲原産のもので、一年性と多年性とあります。本邦では飛燕草と申します。白紅濃紅、黒紅、濃藍、肉色等の綺麗な花を開きます。

春秋に種子を、園地に少し密に直播にし、一二回施肥しますと、春播は其年の五六月頃から開花し、秋播は其儘冬を越して翌春開花します。而して秋播の方が花の色其他の點に於て、春播の方よりも優れて居ります。多年性のものは種子の外、春に分株して殖やします。

(五十八) トリトーマ Tritoma 百合科 (多年草)

トリトーマは、阿弗利加原産の珍奇な多年草であります。五月から八月まで、五六尺の花莖を出し、大きな穂状の花を開きます。(口繪を御覽なさい)色は燃ゆるが如き眞紅で、漸次下部から少しづつ黄色を帯びて行きます。實に目醒むる許りの立派な花でありまして大きな花壇の裝飾には是非なくてはならぬものゝ一つであります。

種子は三月頃、鉢又は床に下種し、五月末に定地に植えますと、二年目から開花します。然し花莖の五六尺の高さになるのは、三年目からであります。冬は根元に木の葉藁を被せて置けば戸外でも差支ありません。肥料は開花前に一二回下肥を施します。繁殖は種子の外三月下旬頃分株をします。

(五十九) トレニア Torenia 玄参科 (一、二年草)

トレニアは、交趾支那原産の一年又は二年草で、五六月より秋まで黄色に濃紫の斑ある唇形の面白い、而して美しい花を開きます。鉢植又は花壇の縁植に適します。

三月頃種鉢に下種しますが、細微な種子ゆへ土を被はずに置きます。二三葉出ました時他の鉢又は箱に一回移植し、一ヶ月餘り経てから、一本づゝ鉢、又は園に植え出し、一二回薄い肥料を與へます。秋蒔は温室内に入れるのは勿論であります。

(六十) ニゲラ *Nigella* 毛茛科 (一年草)

ニゲラは、南歐原産の一年草で、六七月頃白水色牡丹色等の面白い、一重八重の花を開きます。丈け六寸位であります。四月頃、花壇又は鉢に播き付けに致します。是れは移植を好みませぬ。

(六十一) ニコチアナ、アツフィニス *Nicotiana glauca* 科 (一年草)

ニコチアナ、アツフィニスは、煙草の一種で「花たばこ」と呼ばれて居ります。一年草で原産地は不明であります。夏の夕から朝にかけて、雪白の涼しげな花を開き、而してゆかしい香を夕涼みの浴衣の袖に送りますから、爲めに晝の熱さを、ほとく忘れることが出来ます。

此花の新種として、紅色のものがありますが、之れは *Nicotiana glauca* と云ふて再昨年白耳義で改良されたので、誠に珍重されて居ます。

二種共に、四月頃床播にして、三四葉出ました時、鉢又は花壇に移植します。丈け三尺餘りになります。肥料は二三回水肥を施せば宜しい。

(六十二) ニンフエア

Nymphaea

睡蓮科 (多年草)

ニンフエア即ち睡蓮には、阿弗利加原産のものと、南米アマゾン河に産するものとあります。花期は七月から晩秋まで絶へず、紅、黄、白、紫、桃色等の一重、八重の、殆ど有香の美しい花を開きます。なみくと漣へられたる水中に、其清艶な姿を見る時は、實に「水中の女神」と申したくなります。確に水草中の王であります。種子は、五六月頃に、摺鉢の如きものに、二分目程、田土を入れ其上へ腐らした牛糞を布き、油粕を混ぜ、而して又田土を八分目程入れて、其上を平に均らして播き、目の細い如露で除々に灌水し、常に水を漣へ、硝子板で蓋して日當りのよい所に置きます。發芽後も充分に日に當て又、水の絶へない様に注意します。葉が水面一面になりましたならば、一本づゝ三寸五分

位の土鉢に移植します。土及び肥料の入れ方は前同様で宜し。移植後は盥の如きものに水を漣へ、其内へ入れて置くのですが、水の深さは葉が、寛かに浮いて居ることの出来る位が最も宜し。而して成長するに従ひ、大なる鉢に植替へます。出來がよければ其年に開花します。

球根の植付は、五月から七月までが宜しい。鉢又は箱か桶の如きものでも宜しいが、深さより廣さあるものに、田土に人糞若しくは牛糞と、油粕を多量に混ぜた泥土を底に入れ其上に田土を盛り、發芽部の僅かに隠るゝ程に淺く植込み、日當りのよい池又は大なる蓮鉢(常滑鉢)等に入れます。其水の深さは、芽の上二寸許を限りとします。

水は別に取替へるに及びませんが、減水しましたならば、直

に汲み入れて、常に同じ程湛へて置きます。而して子孳等の害蟲を防ぐ爲めに、丁斑魚或は金魚の如き小魚を放して置けば宜し。

冬は耐冬性のものゝ外は、鉢のまゝ若くは掘り上げて温室内へ圍ひます。

繁殖法は種子或は春、分株を致します。

(六十三) **子メジア** Nemesia 主 参 科 (一年草)

子メジアはアフリカ原産の一年草で、四五月頃種子を日當りよき花壇に播き付け、三月頃床播にして植出します。丈け僅に三四寸で白、黄、紅、樺淡紅色、牡丹色等の頗る美しい可愛らしい、小さな花を七月から八月まで開ますから夏の鉢植及び花壇の縁植に誠に適當であります。

(六十四) **ネモヒラ** Nemophila 蝶 菊 科 (一年草)

ネモヒラは北亞米利加原産の一年草で五月から白、藍又は白地に紺斑入り等の一重の愛らしい花を開きます。丈け僅に三四寸でありますから花壇の縁植に適します。誠に可憐な草花であります。

四五月頃園地に直播にし、密生せる所は間引き、三四寸の距離になし、灌水施肥を適度にすれば宜しいのであります。

(六十五) **バイオレット** Violet 堇 科 (多年草)

バイオレットは、學名を *Viola odorata* と云ひ、和名を香堇と申して、歐洲原産の宿根草であります。早春馥郁たる芳香を放つて優美な、紫又は白色の一重、八重の花を開きまして、最も廣く愛せられて居ります。

種子は六月頃、即ち採種して間もなく、鉢又は床に下種し、薄く土を被ひ日蔭にして、適宜の濕氣を保たして置きます、三四葉出ました時、他の床に一度假植し距離三寸位、時々薄き水肥を與へます。冬は霜除をして春になつて、鉢又は園地に植えますと開花致します。

繁殖は種子よりも、挿木か分株によりました方が、早くて手数もかゝりませぬ、殊に八重は結實しないものであります。

挿木は八月の末に、親株から出ました新芽を、砂交りの土を盛つた鉢又は床に挿し、日光を遮り、絶へず程よい濕氣を與へ、秋季是れを鉢又は床地に植えます。

分株は六月頃、勢ひよい株を撰み、葉根等を少し切りつめて、二三芽つゝ根をつけて分け、床に三四寸の距りで植え、南の方に

日除をして、北を開け、且つ風通りを良くし、乾きました時は灌水して、時々薄い水肥を施しますと、よく成育します。十月頃になつて、鉢又は日當りよき暖い地に移植し、冬は霜除をして置きます。

鉢植は秋季、四寸位の鉢に植え、三四日は日蔭に置き、活着いてから日に當てます。是れに用ひます土は、水拔けのよい土に、川砂、馬糞、腐葉土及び油粕を混ぜたもので、肥料は油粕を最も好しとします。冬は木柙か日當りよき暖かい所で培養し時々施肥致します。開花終りました時は涼しい蔭地に下ろし時々薄い水肥を與へますとよく繁茂して匍匐莖を出しますが、是は繁殖の外は切り捨て、母株の衰弱を防ぎます。

香堇は一年に一度移植すれば足れりと思ふて居る人がありま

すが、適當の時、前述の如く植替へた方が宜しいのであります。即ち初夏のは殖やすため、秋のは開花させる爲であります。香堇は砂交りの水拔けのよい肥へた土地に適し、夏は涼しい蔭地が宜し、肥料は油粕を最も好みます。

(六十六) バルサム

Balsam

鳳仙花科 (一年草)

バルサム即ち鳳仙花は東印度原産の一年草で、六月頃から白赤肉色桃色牡丹色絞り等の美麗な一重、八重の花を降霜の時分まで咲き續けます。普通在來の鳳仙花は極めてつまらぬものであります、新種のもは花も大輪で色数も多く、其美しさは迎も較べものになりません。四月花壇に播付け、又は床播にして後植出します。而して一回薄き水肥を與へ、開花中は充分灌水することが必要であります。

ます。

(六十七) バルトニア

Bartonia

刺蓮花科 (一年草)

バルトニアはカリフォルニア原産のもので、六月頃から黄色大輪の花を開きます。

種子は四月花壇に播付け、開花までに一二回薄い水肥を與へます。

(六十八) パーベナ

Verbena

馬鞭草科 (一年草)

パーベナは、北亞米利加西南部原産の一年草で、俗に美女櫻と申します。六月から秋まで、白紅紫緋淡紅桃色牡丹色絞り縁取り等種々の、艶麗な櫻花形の花を開きます。栽培は誠に容易く丈夫な草ですから鉢植又は花壇の裝飾として、最も愛され居ります。

早春、床又は鉢に播き五六葉になりました頃鉢か園地に植え
一二回施肥すれば宜しいのであります。種子の外挿木壓條で殖
やすことが出来ます。

(六十九) パンジー

Pansy

堇菜科 (一、二年草)

パンジーは歐洲原産の野生堇に *Malva* 種を交配して出来た
もので、本邦では三色堇又は遊蝶花と呼ばれて人々に愛育され
る一年又は二年草で、白、黒、紫、褐色、海老色、牡丹色、淡紅色、絞り、縁
取り等數十種の花を開きます。新種のものには色、形、共に珍らし
いものが澤山にあります。

種子は七八月に鉢又は床に播き、四五葉出ました時一度他の
床に假植して、九月中に花壇又は鉢に植えます。肥料としては
牛糞が最も適します。共油粕其他のものでも差支へありません。

んから、開花までに一二回與へるのであります。此の種
春播は其年の六月から、秋播は翌春から開花します。採取し
子は黄ばみました實の、將に破れんとして上向いた時、採取し
なければ、直きにこぼれ出る恐れがあります。
パンジーの一種にコルヌータ (*V. cornuta*) と云ふものがあります。
これは花は稍小さけれ共頗る愛らしきものであります。

(七十) ファセリア

Phacelia

苺

科 (一、二年草)

ファセリアは、北米原産の一年或は二年草で、七月より九月
頃まで、濃藍色の美はしき花を開きます。

種子は三四月頃、花壇に疎薄に播付け、開花までに一二回施
肥致します。開花終りし枝は、直に切り捨てますと、一層長く
花を咲かすことが出来ます。

(七十二) フクシヤ

Fuchsia

柳葉菜科 (多年草)

フクシヤは、南亞米利加原産のもので、灌木状うをして居ります。五六月から開花しまして、色は白、紅、紫、桃色、絞り等で一重八重及び細長い筒咲のものもありまして、萼と花瓣との色の配合誠に奇麗で、垂れ下つて居る其の形が、また一寸奇なものであります。鉢又は花壇に植えて甚だ美麗で、且異彩を放ちます。三四月頃、軽い砂交りの土を盛りました鉢に下種します。種子は極細いものですから、乾いた砂と混ぜて播き、土を被はず、新聞紙か吸取紙を被ひ、灌水して更に硝子板を載せて、蔭所の暖い處に置き、四五枚、葉が出ました時に他の鉢又は箱に移植し、薄い水肥を與へて充分根が張つて強健の苗となつてから、一本づゝ鉢に植えまして、程よく濕りを持たせ、且強い日光を遮

つて、時々肥料を施しますと、翌年から開花します。開花後二三寸に切つて挿せば、容易に根を出しますから、鉢に植えて、温室、木框等で、凌冬させます。是れは實生よりも早く手數も掛りませんから、普通此の法で殖やします。

(七十二) ブラヒコーメ

Brachycome

菊科 (一年草)

ブラヒコーメは、濠洲原産の一年草で、六月から八月まで藤紫又は薔薇色の野菊に似た可愛らしい花を開きます。四月頃鉢又は床播とし、五月頃花壇或は鉢等に植え、時々薄い水肥を施します。

(七十三) プリムラ

Primula

櫻草科 (二、多年草)

プリムラとは櫻草の總稱で、種類は二百餘種ありますが、西洋種では左の四種が最も多く栽培されて居ります。

プリムラ、ヒネンジス (P. chinensis) 是は**サイネンシス** (P. sinensis) と
 も云ひ、清國原産の二年草、花の色は純白、紅、緋、牡丹色等で一重
 八重があります。誠に美麗で、花の少ない冬又は早春、室内或
 は温室の裝飾として、缺く可からざるものになつて、人々から
 甚だ愛せられて居ります。

種子は五六月から八月頃まで、砂混りの軽い土を盛りました
 鉢に播きます。土は被はず新聞紙か水苔を被ひ、硝子板をのせ
 て、風通りのよい日蔭に置き、絶へず程よく濕氣を保たせて置
 きます。三四葉出ました頃、輕鬆の肥土に腐葉土、砂、油粕等を混
 ぜた培養土を盛りたる箱、鉢等に一度假植します。而して稍大
 きくなりましてから、一本づゝ三寸位の鉢に取り、夏は雨等の
 かゝらぬ清涼な日蔭に置き、絶へず濕りを與へ時々油粕汁を施

し、成長するに従つて鉢を大きくし、秋季木框か温室に移し、日
 當りと空氣の流通をよくして培養いたしますと、晩秋から冬に
 なつて開花します。

繁殖法、一重は種子で繁殖しますけれ共、八重は結實し難い
 ものでありますから、側芽の挿木及び壓條によります。壓條の
 方が確かで、開花終りし時、水苔を細かくして砂を混ぜ、鉢の
 表面一杯に満たして、根下を包んで置きますと、直きに根を生
 じまして容易に分けられます。

プリムラ、ステラタ (P. stellata) と云ふのは前種の一種ですが、花
 は正しく櫻花形となつて甚だ美麗であります。

プリムラ、アウリキュラ (P. auricula) 是れは瑞西テイロール原産
 の多年草で、四五月頃黄色の香氣ある花を開きます。花壇又は

鉢に植えて美はしく、葉も天鷲絨の様で觀賞する價値がありま

す。
二、三月頃鉢に下種し、乾かぬ様に水苔か新聞紙を被ひ、暖かな蔭所に置き、適宜の濕りを與へます。四五葉出ました時、軽い肥土を盛りました鉢又は箱に一度假植し、夏は涼しい蔭に絶へず程よい濕りを保たして置きます。秋季一本づゝ三四寸の鉢に植え、暖い室内か木框で凌冬させます。暖地ならば霜除をしてやれば戸外に植付けても其儘で保ちます。繁殖は種子の外、九月か十月中に分株致します。其れは一二芽づゝ根を付けて丁寧に分け、鉢又は床に植ゑます。但し分株は實生の年には出來ませぬ。

プリムラ、ヴェリス (P. veris)

英國原産の極めて丈夫な多年草で、

ポリアンザス (Polyanthus) とも申します。早春、白、紅、牡丹色、黄、黒、紅、紋

り等の美麗な花を開きます。鉢植又は花壇の裝飾に宜し。

九月頃、鉢又は床に下種し、二三葉出ました後、他の鉢又は床に假植して、冬は鉢植は木框に入れ、床植のものは霜除をして置きます。而して春になつて、鉢或は花壇に植ゑ一二回施肥致しますと、五月頃開花致します。

繁殖は種子よりも根分をした方が簡易で且早く花を見る事が出來ます。即ち十月頃一二芽づゝに分け、床又は園地に植ゑて置けば霜除の手數もなく、よく翌春開花します。肥料は開花までに一二回薄い下肥或は油粕を與へれば宜し。

また根分けしたものを一二株四寸位の鉢に植ゑ、冬は木框で栽培しますと早く開花します。開花終りましたものは、稍日蔭

の少し濕つた地に植ゑて置けば、秋までに大株になりますから、
又是を分けることが出来ます。

プリムラ、オブコニカ (P. obconica) 是は支那原産の多年草で、花

は淡紅色の誠に愛らしいもので、一年中絶へず開花します。鉢
植切花等に宜し。

種子は何時播いても差支へありませんが、取播即ち採取して
間もなく播くのが最も宜しいのであります。これは鉢播で、冬
は木框内で栽培致します。三四葉出ましてから、他の鉢か箱に
移植し、大きくして一本づゝ二寸五分位の鉢に取つて、成長す
るに従ひ、大なる鉢に植替へ、夏は涼しい日蔭に置き、灌水施
肥等適宜に致しますと、三月余りで開花いたします。
種子の外秋季に分株して殖やします。

(七十四) フロックス Phlox 花 蓴 科 (一、多年草)

フロックスは北米、亞細亞、露西亞等に産し、一年草と多年草と
あります。

一年草は、學名を *P. Drummondii* と云ひ、北米テキサスの原産で

五六月頃より白、黄、紅、紫、淡紅、絞り、覆輪等の美しい花を花笠状に開

きます。普通にフロックスと云ふは、是のことです。 *Star-
phlox* (學名 *P. cuspidata*) と云ふのは、花が星形になつて居るので此名

があります。本邦では俗に、劍菱フロックスとも申して居りま

す。何れも花壇の裝飾鉢植、又は切花として誠に奇麗であります。

種子は三四月頃、鉢又は床播として、一二寸に成長しました

時、鉢或は日當りよき園地に植ゑ替へ、心を止めて多くの枝を

出さし、開花までに一二回施肥し、夏は充分に灌水いたします

と永く咲き續けます。又目的の地に播付ても宜しいのですが、是は餘り好ましくありません。暖地ならば秋播としてもよいので

す。多年性は學名を、*P. Decussata* (又は *P. acuminata*) と云ひ、北米ジョージア州及び南カロリナの山中に自生せる丈夫なるもので、淡牡丹色ばかりの美しい花であります。

種子は秋、採收して直に鉢に播き、冬は木框に入れて置きます。然し容易に發芽しないもので、往々半年もかゝることがあります。それ故繁殖しますには、主に分株か挿木でありまして、分株は春か秋に致します。挿木は六七月頃三四寸の枝を、砂交りの土を盛りました、鉢か床に挿して、日蔭にし絶へず程よい濕りを與へますと、直に根を出しますから、翌年園地に定植い

たします。又夏期根元に厚く土を被ふておきますと、根際の小枝から發根しますから、秋それを切り離して床に植ゑます。此のフロックスは、日當りと水抜けのよい土地に植ゑ、時々施肥いたしますとよく繁茂して開花します。

(七十五) ペツニア

Petunia

茄 科 (一年草)

ペツニアは、南亞米利加の原産丈夫な一年草であります。俗につくばね朝顔とも呼ばれて居ります。六月頃から降霜の頃まで、朝顔に似た白、紅、紫、絞りの等の一重、八重の美麗な花を開きます。鉢植、花壇植に誠に適當であります。春三四月頃、床又は鉢に播き、二三寸になりました時、園又は鉢に植ゑます。夏期は充分灌水し、時々薄い水肥を施します。暖地ならば秋播いても宜し。繁殖は一重は種子であります。八

重は結實し難いものでありますから、秋季挿木をいたしまして、温室か木框に入れて凌冬させます。

(七十六) ペラーゴニウム Pelargonium 牻牛兒科 (多年草)

ペラーゴニウムは、アフリカ原産の多年草で、左の三つに大別します。

P. dipetalum. 之れは English (又は Odier) Pelargonium とも云ひ白桃色紅の

絞りの、大輪の美麗な花を、春より初夏にかけて、只一季開きます。本邦でペラーゴニウムと云へばこの種類を指します。

三四月頃、鉢に下種し、暖かな陰所に置き、三四葉出ました時二寸位の鉢に植ゑ、根づきましてから、充分日光に當て、灌水を怠らず、時々薄い油粕汁を施し、成長するに従つて鉢割合に小形のを大きくし、秋になれば木框に取り入れて栽培しますと、

翌年五月頃より開花します。繁殖は主に挿木によります。挿木は開花終りましてから、九月頃までに、程よく固まりました新芽を、二三寸に切つて、鉢又は床に挿し、根が出ましたならば三寸位の鉢にとり、日當りのよい所に置いて栽培し、一二度心を摘みて多くの枝を出さし、秋になつて少し刈込みます。剪定をせぬと、丈けばかり延びて、醜くなります。時期は秋が最も宜し。

P. pelatum. これは葉が蔦の葉に似て居るので Ivy leaved P. 即ち常

春藤葉ペラーゴニウムとも申します。垂れ下るものですから、鉢植として吊るしますと誠に綺麗です。花は四季咲で、一重八重があります。栽培法は前種同様で宜し。

P. zonal (Scarlet) 是れはゼラニウムの條を御覽なさい。

(七十七) ヘリアンザス

Helianthus

菊

科 (一、多年草)

ヘリアンザスは北米原産の丈夫な一年又は多年性で、和名を日向葵と云ひます。黄白(極薄黄)の一重八重の種々な花を開きま
す。長性と矮性とありまして、三四月頃定地に直播し、又は床
に下種し、四五葉出ました時二三尺の距離に、日當りよき園地
に植出しますと、七月頃から高いのは二間餘、低いのは一尺位
に伸びて花を持ちます。多年草は秋播いても宜し。

(七十八) ヘリアンテムム、ムタビレ

Helianthemum mutabile 金絲桃科 (多年草)

是れは歐洲中部から南部及び小亞細亞邊に産する、亞灌木の
丈夫な多年草で、高さ四五寸で匍匐性を有して居ります。五六
月頃紅白の、梅鉢形の一重、八重の可愛らしい花を開きます。花
壇或は築山の半腹等に植ゑて眺めるのに甚だ適します。

種子は三四月頃床又は鉢に播き、二寸位になりました時に、一
度他の鉢なり床なりに假植して苗を丈夫にし、二三寸に成育し
ました時、花壇に植付けます。時々施肥して、其年だけ霜除を
しますと、二年目から毎年開花します。繁殖は一重は種子及び
壓條ですが、八重は結實し難いので主に壓條であります。

(七十九) ヘリオトロップ

Heliotrop

紫草科 (多年草)

ヘリオトロップは、南米殊に秘露と智利に多く原産の多年草
でありまして、五六月頃から秋まで白、紫の芳香ある小花を、澤
山枝頭に群開します。而して四時絶へることがありません。
三四月頃、輕鬆の砂壤土を盛りました鉢に下種し、硝子板を
被ひ暖な陰所に置き、時々灌水すれば一週間程で發芽します。
四五葉出ました時、小さな鉢に移し、成長するに従つて漸次に

鉢を大きくし、三四寸に伸びました時、摘心して多くの枝を出さします。而して日當りのよい所に置き、程よく灌水し又時々肥料を施しまして、冬は木框内に入れて寒さを凌がせませす。繁殖は實生の外、挿木で致します。挿木は春から秋までならば何時でも宜し、餘り軟かくない芽を、二三寸に切つて挿し、日蔭にして少し濕らして置きますと、容易に活着します。ヘリオトロップは又花壇植にもなりますが、冬は鉢に植ゑて木框内に入れて置きます。

(八十) ヘリクリサム Helichrysum 菊科 (一年草)

ヘリクリサムは、原産地は濠洲で、貝細工又は貝殻草と呼ばれて居る一年草で、夏から秋まで八重の光澤ある花瓣の剛い、然し美しい黄、紅、淡紅、海老色、樺其他種々の花を開きます。

春彼岸頃に床播にして、四五葉出ました時、目的の地に移植し、一二回施肥すれば、丈け三尺位になりますして開花します。暖地では秋播としても宜しい。この花の他花と異ふところは、切花として何時までも色形共に變らず、丁度貝細工の様であることであります。面白いことには濕氣を受ければ萎み、乾けば再び開きます。

(八十一) ベゴニア Begonia 秋海棠科 (多年草)

ベゴニアは熱帯地方に多く産する多年草でありまして、秋海棠の類でありますが、種類は甚だ多く四百餘種に上ると云ひます。然し之を大別して観葉種 (B. Rex)、球根種 (B. tuberosa) 及び木立種 (B. Vernen) の三種として、是等の内に數多の變種もありません。普通にベゴニアと申しますのは、此の木立種で最も多く栽培さ

れて居ります。花は絶へず開花し、赤、白、紅、黄、樺、淡紅等種々ありまして、又大輪のもの、小輪のもの、或は海棠に似たもの等美しく、又優しいのが澤山にあります。常に少し湿つて居て、暖かい所を好みます。夏は強い日光を遮り充分に灌水し、時々薄い水肥を施し、冬は温室か木框で凌がせます。

繁殖は種子か挿木にいたします。種子は四月頃、砂混りの細かい土を入れた鉢に、よく乾いた砂に混ぜて疎らに播ます。微細な種子でありますから、土は被ひません。而して其上を新聞紙か吸取紙かで被ひ、極く目の細かい如露で除々灌水した後、鉢の上に硝子板をのせ、暖かい陰所に置き、發芽して二三葉出ました頃、輕鬆な肥土を盛りました

二寸位の鉢に移植し、順次に鉢を大きくして培養すれば、二年目から開花します。挿木は、充分成育しました葉、又は枝梢を、砂混りの土を盛つた鉢に挿し、陰の暖かい所に適宜の濕氣を保たして置きます。球根ベゴニアは球根の部に、レツクス種は觀葉の部に書いてあります。

(八十二) ベリス

Bellis

菊 科 (多年草)

ベリスは又デジー (Daisy) とも云ひまして我邦では延命菊或は雛菊と呼ぶ、英國原産の丈夫な多年草であります。三四月頃丈け僅に三寸餘りで、小菊に似た八重の白、淡紅、絞り、覆輪等の優しき花を開きます。鉢植とし又は花壇の縁植に、パンジーと共に早春の花として愛せられて居ります。

六月又は八月頃床に下種し、四五葉出ました時、他の床に移
植し、一二回薄き水肥を與へ、充分濕りを保たし、夏は日除を
して置きます、冬は霜除をし、春になつて蕾が出ましたならば、
定地に本植致します。繁殖は種子の外開花後、根分して涼しい
半陰の地に植込んで置きます。秋になつて之等の苗を、日當り
のよい床に植替へ、前の如く致します。

この變種に *B. Prolifera* と云ふのがあります。これは甚だ面白い
花で一つの花から更に幾個も小さい花が出て居る所は、恰も母鶏
の傍に雛が遊んで居る様なので、*Hen and Chicken Daisy* とも呼ばれて居
ります。

(八十三)

ヘルレボルス

Heliborus

毛茛科 (多年草)

ヘルレボルスはアルプス山の原産で、亞灌木の多年草であり

ます。十一月末から三月の頃まで、白紋り等の一重の薔薇に似
た花を開きます。それ故にクリスマス、ローズとも呼ばれて居
ります。

春彼岸頃、砂壤土を盛りました鉢に下種し、二三葉出ました
頃、先づ二寸位の鉢に植ゑ、成長するに従つて漸々大なる鉢に
植替へ、夏は強い日光を遮り、充分に濕氣を與へ又時々施肥致
します。冬は木框内にて凌がせ、春になつて新しき培養土を盛
りたる五六寸の鉢に植へ、又は園地に植付ます。これは半蔭の
よく肥へた土地を好みます。
種子よりも春分株して殖やした方が宜し。但し前年の實生の
ものは、翌春には、まだ分けることが出来ません。

(八十四)

ペントステモン

Pentstemon

玄参科 (多年草)

ペントステモンは、カリフォルニア又は墨西哥原産の多年草で、種類が七十種もあります。丈が一二尺になつて、六月より桃色、深紅、牡丹色、肉色、紫等の艶麗な花が開きます。鉢植、花壇植何れにも適します。

春彼岸後に鉢又は床に下種し、温暖な處に適宜の濕りを保たして置きます。發芽して一二寸の時、小さな鉢にとり成長してから花壇に植出し、又は大なる鉢に植替へ、夏は多く灌水し、時々施肥いたしますと、其年の秋に開花します。冬は木框で凌がすのですから、土地植のものは短く刈り込んで、鉢に植ゑて取入れます。秋季下種しますと、翌年の夏より秋にかけて開花します。

繁殖は種子の外、挿木、壓條がよく、其時季は八九月が最も宜

し。

(八十五)

ポッピー

Poppy

罌粟科 (一、二、多年草)

ポッピー即ち罌粟は歐洲、亞細亞の温帯又は亞熱帶、濠太利亞、アフリカ等に産するもので、種類は四十種程もありまして、一年性、秋に下種すれば二年性となる。多年性とあります。五六月より一重、八重の白、黄、紅、紫、緋、淡紅、絞り、縁取り等の艶麗なる花を開きますから、鉢植又は花壇植として、廣く愛せられて居ます。種子は、春秋の彼岸頃に播くのですが、是は移植を嫌ふものでありますから、花壇に播付けとします。然し多年性だけは苗の間ならば、移植することが出来ます。發芽して四五葉出ました時、四五寸の距離に間引き、開花までに二三次施肥すれば宜し。若し鉢植を望む時は、目的の鉢に播付け、冬は日當りよき

暖かい所で凌がせます。

普通に罌粟子と申して居るのは、學名を *Papaver somniferum* と云ひ

甚だ美麗であります。此の外牡丹げし (*P. bracteatum*) おにげし (*P. orientale*)

虞美人草 (*P. Rhoeas*) 等種々あります。

(八十六) ポルチュラカ

Portulaca

馬齒莧科 (一年草)

ポルチュラカ即ち松葉牡丹は、南米智利原産の一年草で六月

頃から白、黄、紅、橙、緋、淡紅等の一重八重の可憐の花を開きます。

種子は四月頃、鉢又は床播にし、土は極薄くかけ、且乾かし

て置くことが必要であります。四五葉の頃、鉢又は花壇に移植

します。これは日當りのよい砂混りの乾燥した地に適します。

而して少々の雨は害ありませんが、灌水は好みません。然し八重は結實し難く、且眞

繁殖は種子か挿木で致します。

の八重は百分中三十位より出ませぬ。

(八十七) ミムラス

Mimulus

玄参科 (一年草)

ミムラスは南北亞米利加に原産するもので、一年性と多年性と

とあります。六月頃から秋まで、黄地に赤海老茶其他種々の色

の斑点ある花を開きます。

四月頃、砂交りの軽い土を盛りました鉢に下種し、土を被は

ず軽く押し付けて、暖かな陰所に適宜の濕氣を保たして置きま

す。發芽して四五葉出ました時、他の床又は鉢に移植し、稍成

長してから、一本づゝ鉢、又は花壇に植出し、開花までに一二

回腐熟した油粕汁を與へます。之れは肥沃の少し濕りました半

蔭の地を好みます。秋播として温室或は木框で凌冬させますと、

翌春四五月頃に開花します。繁殖法は種子の外、分株、挿木等をも

いたします。

(八十八) ミヨージチス

Myosotis

紫草科 (二、多年草)

ミヨージチスは主に、アルプス山、及び歐洲南部原産のもの
 で、Forget-me-notとも呼ばれて居ります。本邦でも勿忘草と申して、
 近時流行の西洋草花の一つであります。二年性と多年性とあり
 まして、多年性の中に又一季咲と四季咲とあります。普通廣く
 栽培されて居るのは、アルペストリス (M. alpestris) と云ふ種類で、四
 五月頃藍、白、淡紅等の小さい優しい花を開きます。此の花も莖と
 共に多く世に知られ又愛せられて居るものであります。
 種子は三四月若くは七八月頃、鉢或は床等に播いて、其上に
 少し土を被ひ、稍堅く板で押し付け蔭に置きまして、少し濕り
 を與へます。發芽して四五葉出ました頃、肥土を盛りました他

の鉢又は床に一回假植し、稍大きくなりましてから苗床或は一
 本づゝ鉢に植ゑ、夏は日中の強い光線を遮り、又時々薄い水肥
 を施します。而して降霜の頃になれば、二年草及び多年草は鉢
 植のものは、木框に入れ、床植は其儘霜除をして凌冬させて、翌
 春花壇に植出します。灌水、施肥等は成可く葉にかゝらぬ様に注
 意し、土は水抜きのよいものを要します。
 繁殖法は種子の外、多年性は開花すみましてから挿木、分株
 を致します。

(八十九)

ミラピリス ヤラバ

Mirabilis Jalapa

紫茉莉科 (一、多年草)

ミラピリス、ヤラバは、墨西哥原産の丈夫なる一年性又は多
 年性で俗に紫茉莉と申して居ります。夏の夕暮、白、紅、緋、淡紅、黄、絞
 り等の美麗な花を開きます。矮性種は鉢植花壇の縁植に宜し。

種子は三四月頃床播とし、五月頃日當りよき花壇に植出し、開花までに一二回施肥し、夏は充分に灌水致します。秋季根を掘り上げて天竺牡丹と同様に圍つて置き、翌春植出せば早く開花します。

(九十) メゼムブリアンテムム *Mesembrianthemum* 番杏科 (一年草)

メゼムブリアンテムムは、南アフリカ原産の一年草或は多年性のもので、和名を松葉菊と申します。五六月頃白、桃色、紅等の優しく愛らしい花を開きます。

四月頃鉢又は床播とし、四五葉出ました時、鉢か花壇に植出します。是れは日當りのよい乾燥した砂交りの土地に適して居ります。多年性は木框で凌冬させ、冬季中は殆んど乾かして置ます。種子の外、多年性は春秋に挿木で容易に殖やすことが

出れます。

(九十二) ラバテラ、 *Lavatera* 錦葵科 (一年草)

ラバテラは南部歐洲原産の一年草で、七月頃から秋まで白、淡紅色の錦葵に似た花を開きます。

種子は三月から五月頃までに、日當りのよい地に直播とし、一回施肥すれば宜し。

(九十三) ランタナ *Lantana* 馬鞭草科 (多年草)

ランタナは北米の温帯地方に多く産する亞灌木で、絶へず白、赤、紅、朱、桃色、樺等の美麗な花を開きます。

春、鉢播にし二三葉出ました頃、一本づつ鉢に植る時々施肥し、又適宜の濕氣を保たして、日當りのよい所で栽培致します。と、十ヶ月程で美麗な花を開きます。冬は木框で凌冬させます。

繁殖は主に挿木で、八九月頃若い枝を砂交りの土を盛つた鉢か床に挿せば、容易に根を出します。

(九十三) リナリア *Linaria* 玄参科 (一、多年草)

リナリアは澳大利、瑞西、モロッコ邊の原産で一年性と多年性とあり、又蔓性のものもあります。六月頃から八月まで、白紫牡丹色、黄等の金魚草によく似た花を咲きつゞけます。

種子は四月頃、花壇に播付け、發芽して密生して來ましたら二三寸の距りに間引き、一二回薄い水肥を施します。これは日當りのよい乾いた地を好みます。

(九十四) ルードベキア *Rudbeckia* 菊科 (一、多年草)

ルードベキアは、北米原産の一年又は多年性のものです。夏期黄、紅又は黄色に濃き鳶色の斑紋ある美麗な花を開きます。切

花に宜しく又花壇植に適して居ります。

種子は春、床播にし二三寸の苗となりましてから定地に植ゑ、二三次施肥すればよいので、多年性は春、分株して繁殖致します。

(九十五) ルピヌス *Lupinus* 豆科 (一、多年草)

ルピヌスはカリフォルニア原産の丈夫なもので、一年性と多年性とありまして、種類は八十餘種もあります。丈け三尺餘りで、五月頃白紫、紅、淡紅色の藤の花を立てたやうな形の花を開きます。葉は羽團扇に似て居ります。花壇に植ゑ又は切花として最も宜し。

種子は一年性は春彼岸頃に、床又は鉢に播き三四葉出ました時、他の苗床に移植し、成長させて目的の地に植出します。多

年性は、春秋に下種し前の様にしまして、其年だけ霜除をすれば、翌年からは霜除は入りません。此植物は大抵の土地に出来ますが、餘り濕潤の地は好みませぬ。

(九十六) レゼダ Reseda odorata 木犀草科 (一年草)

レゼダは一名ミニヨチツト (Mignonette) と申します。地中海邊の原産の一年草で、六月頃から木犀の如き佳香ある花を開きます。故に木犀草とも呼ばれて居ります。

四月頃種子を床播にして、四五葉出ました時、目的の地に移植するか、或は園地で疎薄に播付けます。種子か挿木で殖やします。

(九十七) レプトジホン Leptosiphon 花荵科 (一年草)

レプトジホンはカリフォルニア原産の一年草で六月頃から丈僅に三寸計りで白、黄、橙、紅、桃色等の小さい梅花形の愛らしい美花を澤山に開きますから、満開の時は實に奇麗であります。四月頃花壇に疎薄く播付け、一二回薄い水肥を施します。これは移植することが出来ませんから、鉢植を欲する時は其鉢に種子を播かなければなりません。

(九十八) ロベリア Lobelia 桔梗科 (一、多年草)

ロベリアは一年性、多年性、長性、矮性等五百有餘種ありますが本邦では矮性ロベリア即ち南米原産の 'Lobelia' と云ふ一年草(又は二年性ともなります)のものが最も多く知られて居ります。矮性ロベリアと云ふ名のある程でありますから其丈は僅に三四寸で花を付けます。色は白、紅、藍等で小さな愛らしい花であります。是を花壇の縁に澤山植ゑます時は恰も花毛氈を敷きつめ

たかの様に美しく引き立つて見えます。

これは種子又は挿木で繁殖させます。

種子は春季、鉢又は箱に乾いた砂を混ぜて疎らに播きます。

しかし極く微細な種子でありますから土は被ひません。而して

暖かい陰所に置き、少しの湿りを保たして置きますと、直に發

芽します。三四葉出ましてから、他の葉又は箱に一度假植し、鬚

根を出さして丈夫にして、鉢に植へ、一二回摘心しますと形よ

くなりません。而して開花するまでに、一二回油粕を與へれば、六

七月から開花します。秋播にした時には、木框に入れて凌冬さ

せますと、四月頃に花を見ること出来ます。

紅、黄等の大輪の美麗なる花を開きます。花壇植に宜し。

Hydrangea cardinalis 種は北米原産の多年性で、丈け二尺餘り、七月頃深

種子は春秋に床播とし、四五葉出ました時、一本づゝ鉢にと

り、三四寸になりましなれば、春播は花壇に植ゑ、降霜の頃

再び鉢にとつて木框に入れます。秋播は植出さず鉢植のまゝ、木

框で凌冬させます。而して孰れも翌春四月頃花壇に植出すので

すが、春播のものは稍深く植込みます。日當りよく且、水抜け

のよい肥へた土地に適し、肥料は開花までに一二回施せば宜し。

繁殖は春、分株又は挿木いたします。

Hydrangea fulgens 種も北米原産の多年草で、前種に似て居りますが、花

は赤色のみで且つ莖や葉も暗赤色を呈して居ります。夏季開花

して花壇植に宜しい。栽培法は前種同種であります。

(九十九) ローダンテ *Rhodanthe* 菊 科 (一年草)

ローダンテは、濠洲原産で貝殼草に屬した一年草であります。



一三〇

花は五月頃から咲きますが、實に優しく美しい、白又は櫻色の花であります。丈けは四五寸で、鉢植或は花壇植に誠に宜しく、又切花として陰干にして置きますと永く保ちます。種子は三四月頃、花壇に播付けるか又は床播にして、二寸位になりました時、鉢又は花壇に移植します。半陰の少し濕つた地に適します。

(百) ワーレンベルギア

Wahlenbergia 桔梗科 (多年草)

ワーレンベルギアは、南歐及び濠洲原産の桔梗の一種で、多年草でありまして、春三四月頃、床に播き四五葉出ましたら、半陰の定地に植ゑ、一二度施肥しますと九月に開花します。翌年よりは、六月より九月まで咲き續けます。色は白、紫で一重と八重があります。丈け誠に矮く三四寸餘りで開花しますから、鉢

植又は花壇の縁等に植ゑて奇麗であります。繁殖は種子及び春、分株いたします。

球根栽培法

(一) 土地植 球根類は、砂交りの肥沃な水抜けのよい、輕鬆の土に適しますから、之れを土地に植込む場合には、凡そ二十日乃至三十日程以前から、土地に砂を混ぜて下肥を充分に澆ぎ、時々耕作して軟げて置きます。尙植込む時は、元肥として、よく腐熟した牛馬糞、堆肥の何れかに、油粕を少し混ぜて施しますと、更に好結果を得ます。而して球が發根せぬ内から、直接に肥料に觸れるのは宜しくありませんから、肥料の上に土を少し被ひ、又發根部の所に砂を少し置き發根を良くします。植込む深さは、球の大小に因り一様でありません。而して深きに失すると發芽困難になり、又餘り淺いときは倒れますから、

注意を要します。

植込後は土を被ひて平に均らし、極寒中は落葉か切藁の類を一二寸の厚さに敷きて寒さを凌がせ、而して灌水施肥等は全く止めます。

(二) 鉢植 鉢植に用ふる土は普通の畑土五分に、川砂三分と、よく腐熟した牛糞か馬糞或は腐葉土を二分と、油粕を少し

混ぜたものを、最も良いとします。

鉢は素焼の瓦鉢で球根用として稍淺く製したる鉢ならば最も宜し、口径四寸以上のものを用ひます。植ゑる時は、鉢底に瓦か鉢の破片を少し入れ、中程まで土を盛り、砂を少し入れて球を其上に据へ、發芽部の全く隠れるまで土を被ひ、而して灌水し暖かな日蔭に置きて、發芽しましたならば日向に移し、充分

空気に觸れしめ、常に乾濕の差の甚しくない様に注意します。冬は温室か木框に入れて栽培するのですが、餘り暖に過ぎると延び過ぎます。普通の室内で培養する時は、晴天の日は日當りよき椽側等に出し、夜間又は曇つた日等は取入れます。然し火鉢の傍等に置いて温めてはいけません。

肥料は培養土中に、充分含まれてありますけれども、尙開花までに二三回よく腐れた油粕汁か馬糞汁の薄いものを與へます。

(三) 貯藏法、五六月頃になりますと、葉が漸く黄ばみて來

ますから、鉢植は灌水を減じ、遂に全く止めます。而して葉が全く枯凋しました時に、球を掘り上げて乾かし、乾いた砂に埋め、又は其儘風通しのよい濡れぬ所に、次の植込時まで貯へて置きます。

其他の注意、花が咲き終りました枝は、直に切り捨て、又側芽は用捨なく摘み取りて、母球の衰弱を防ぎます。

球を大きく致しますには、床地で栽培し側芽を切り捨て、且つ蕾を摘み去りて花を開かせない様にします。又鉢植等で開花

させた球は、無理がしてあるので、如何しても衰弱して居りま

すから、次年には好い花が咲きません、故に今年開花したものは、來年は花を咲かさずに、よく培養致します。そのすれば丈

夫になつて、再來年は再び美花を開きます。是故に毎年美しくし

い花を眺めんとするには、二通り備へて置き、交るく咲かすのであります。

開花後掘り上げて乾燥しますには、雨のかゝらぬ蔭干がよいので、強い日に當て、乾かすのは宜しくありません。

アマリ、ス、グロキシニア、シクラメン、球根ベコニア等を除きまして其他のものならば大抵前述の栽培法で宜しのであり
まり。

○(一) アネモネ、 Anemone

毛茛科

アネモネは、主に地中海沿岸に産するもので、花は一重八重
がありまして、四五月から七八月頃に、白、黄、藍、緋、桃色、鮮紅、絞り等
の、優美、艶麗な花を開きます。

球根は、九月より五月頃までに、日當りのよい花壇に距離五
寸、深さ二寸位に植付け、開花前に一二回、薄い水肥を與へま
す。冬は、二三月以後に植込むもの、外は霜除を要します。

鉢植にするには、壤土三分に、川砂五分と、よく腐熱した牛
糞又は腐葉土を、少し混ぜました培養土を用ひ、冬は木框か温

室で栽培致します。然し露地栽培は、鉢栽培よりも結果が宜し
いのであります。花が終つて全く枯れました頃、球を掘り上げ、
よく乾かして貯藏致します。繁殖は分株又は挿芽をします。

(三) アマリ、ス

Amaryllis

石蒜科

アマリ、スは、概ね南亞米利加原産の丈夫な球根で、四月頃
から六月頃二尺程の花莖の上に三乃至五輪計り百合に似た大輪
の壯麗な花を開きます。色は白、赤、桃色、朱、絞り、縁取り等で實に眼
も醒むる計りあでやかな花でありますから温室、花壇若くは室
内等の裝飾に最も珍重されて居ります。

球は、早春日當りのよい、軽い肥沃な地に、馬糞、油粕等を元
肥として施し、一尺位の距離に、浅く植込むか、或は輕鬆な眞
土に腐葉土、川砂、油粕等を混ぜた培養土を盛りました、五寸

から七寸位の鉢(勿論球の大小によつて鉢の大きさを異にします)に、球の割合に小形の鉢を用ひます、其方が球のために宜しいに、球の半分程を土の上に出して植込み、球にかゝらぬ様除々灌水して、日當りのよい所に置きます。若し降霜の恐れがあれば、室内又は木框内に取り入れる事を忘れてはなりません。若芽が成長する間は、一ヶ月に二回位、腐熟した油粕汁を施し、充分に灌水して、葉等の凋ばぬ様に注意します。而して夏季中は、日中の強い日光を避ける方が球のために宜しい。開花後、十月頃までは尙成育期間ですから、灌水、施肥共に注意し、冬期の休止中でも灌水は必要であります。冬は木框等に入れて置きます。

繁殖法は種子と、分球とあります。種子は五月頃、少しなら

ば鉢、多ければ床に、各種子の間を一寸計りにして播き付け、三分許り土を被ひ其上に藁の様なものを振りかけて置きます。斯様に致しますと、夏の強い日にも傷まず、安全に秋までに周囲二寸程の球になつて居ります。これは開花するまで、三四年かゝります。

分球の方は、早春植替へる時に、母球の傍に付て居る子球を、分けるのでありますが、離れ難い時は無理に引き離さず見合せが宜しい、是れは三年目から開花します。子球は大抵、根の少ないものですから、三寸か四寸位の鉢に植ゑますと宜しい。而してアマリ、スは總て開花し始めますと、毎年必ず咲くものであります。

種類は十二種程あります。

A. aulica. 花は鮮赤色で、底は淡緑色のぼかしです。早春開花

せしめるのに適して居ります。



A. Belladonna. 七月より十、十一月の頃に、薔薇色の香氣ある花

を開きます。是れは開花後、葉の出るものであります。

A. Coranica 球最も大きく、秋季開花します。

A. crispa 一名 *Stimmaria.* 八月より十一月までに、薔薇色の美麗な

花を開きます。

A. formosissima. 一名 *Sprekita.* 植込みて二週間程経ちますと開花し

ます。色は鮮赤色で頗る美麗であります。鉢又は露地栽培、何

れにもよく、石灰質壤土が最も適します。グラチオラスの如

く取扱へば宜し。

A. glauca. 是は前種よりも大輪で美しく、ヒアシントの様に水

栽することも出来ます。

A. Gravana. 鮮かなる深紅色の大輪で、栽培容易であります。

A. longifolia. 十月より四月頃まで、薔薇色の花を開く、勿論温

室内であります。變種に白もあります。

A. lutea 一名 *Sternbergia* 晩夏より秋に黄色の可愛らしき花を開く。

露地栽培に宜し。

A. Tettani. 冬季温室内で、鮮赤色の花を開く、鉢植に宜し。

A. vitata. 本邦でアマリ、スと云へば通常この種で、最も廣く

知られて居ります。

A. Purpurea 六月より八月頃、深紅色の綺麗な花を開きます。

(三) イキシヤ *Ixia*

イキシヤは喜望峰原産のものであります。丈け三尺程に成長

し、四、五月頃に白、赤、黄、樺、紫、紅、絞、り等の美麗な花を開きますから、切花として至極く適して居ります。

十月、球を砂混りの地に、一寸位の深さに植込み、冬は藁等で厚く霜除をして置きます。而して春になつて暖かになりましたならば、是等の覆ひ物を除き、一二回薄い水肥を與へますと、よく開花します。開花後、葉の枯れました時は、掘り上げて、よく乾かし、乾いた砂に埋め或は其まゝで、濕らぬ所へ貯へて置きます。鉢仕立にするには四寸乃至五寸鉢に、四五球を植付け、冬は木框内で培養します。

(四) イリス Iris

鳶尾科

イリスは、藻藻に似たるもので、花の色は黄、白、紫、褐色、藍色等の數種あります。開花は四五月頃で、其花が美しく、其風情が

高尚である爲めに、花壇に植ゑて一層其の品位を、揚げることに出来きます。且つ丈夫な花故、切花として瓶に活ける時は、其美しさも一入増します。

此球は十月頃鉢又は園地に、深さ二寸距離五寸程に植込み、木の葉、藁等を被ふて寒さを凌がせ、開花前に一回施肥します。開花後、葉が枯れましたならば、掘り上げて乾かし、貯へて置

きます。
船來種の中で I. anglica (英國原産) I. germanica (獨逸原産) I. hispanica (西班牙原産)等は奇麗であります。

(五) カラ Calla

天南星科

カラは南アフリ加原産のもので、海芋とも呼ばれて居ります。葉は芋に似て、花は喇叭形をなし、白色又は黄等あります。

球根は春、花壇又は五六寸の鉢に植込み、斷へず充分に濕らして、時々人糞、油粕、牛糞其他何の肥料でも施せば、六月から開花します。夏の花として、涼しいものゝ一つに數へられて居ります。

又九月か十月頃、鉢植にして木框の中へ入れて置きますと、冬季中でも開花します。カラは濕地に適するものであります。

(六) グラチオラス、

Gladiolus

鳶尾科

クラチオラスは、俗に唐菖蒲と云ひます。種類が百四十種もありまして、中部歐洲、地中海、西部亞細亞及び亞弗利加邊原産の、丈夫なる球根であります。丈け四五尺ありまして、六月から赤、白、黄、緋、堇、藤色、淡紅、斑入り等の、艶麗な花を開きます。花壇植、鉢植、切花等何れにしても、實に美しいものであります。

球は四月頃、鉢又は花壇に植込みます。鉢植の時は五寸位の鉢に、砂混りの培養土を盛り、一二球植込み日當りのよい處に置きますして、時々薄い油粕汁を與へ、乾きました時は充分に灌水します。園地に植える時は、日當りの良い處を、よく耕して施肥して置き、二三寸の深さに植込み、球の周りに少し砂を入れ、土を被ふて置きます。秋季降霜の頃、球を掘り上げ干して、乾きたる砂又は糠殻等の中に埋めて貯藏します。繁殖は子球を分けるのが普通であります。實生によつて變種を得ることも出來ます。此の植物は毎年土地を變へて植ゑねば、微菌に冒される憂があります。

(七) クロカス、

Crocus

鳶尾科

クロカスは、歐洲、北部阿弗利加及び亞細亞の西部に産するも

ので、俗に花サフランと呼ばれて居ります。僅か三寸許りの丈
けで、早春、白、黄、紫、淡紅、絞り等の優しい花を開きますから、花壇

又は鉢植として広く愛せられて居ります。栽培は至て容易で、九月から十二月頃までに、花壇に深さ一
寸、距離三寸位に、植込んで置きますと開花します。冬は霜除
は入りません。又三四年間は植替へない方が宜し。

鉢植にするには、水抜きのよい肥土を盛りたる鉢に、三四球
植込み鉢のまゝ土中に埋め、蕾を見ましてから取り出すと、種
々の手数を省いて宜しいのであります。

(八) グロキシニア

Gloxinia

苦苣苔科

グロキシニアは、中央アメリカ原産のもので、六七月より美
麗なる花を開きます。色は白、黄、紅、紫、淡紅、色、絞り、縁取り等數十種

ありまして、濃緑色の葉も亦奇麗であります。鉢植として温室
又は室内の裝飾に賞せられて居ります。是れは温室か木框内でなければ、栽培の出来ないものと思ふ

て居る人もありますが、球根で植付けますならば、木框や温室
がなく共、立派に開花することが出来ます。

種子は一月より三月頃迄に、輕鬆の砂壤土を満たしたる鉢に、
極く疎く播き、土を被はず軽く押さへ付け、適宜の濕氣を與へ、
硝子板を鉢の上に乗せて、温室か木框内の華氏五六十度の、温
度の處に蔭にして置きます。發芽しました時は、少しづつ弱き
日光に當て、三四葉出ました頃、培養土を盛りたる鉢又は箱
に、一寸程の距離に丁寧に移植し、矢張り暖かく半陰にして、少
し許り濕氣を保たして置きます。而して充分に丈夫な苗となつ

てから、一本づゝ小さな鉢に取り、追々成長して根が鉢底の穴から出る程に一杯に張りましたら、更に大なる鉢に植替へます。斯の如くして成育するに従ひ大なる鉢に、新しき培養土を以て植替へ、又時々施肥しますと其年に開花します。

球根は、三四月頃四寸位の瓦鉢に一球づゝ、浅く發芽部の僅に隠れる程に植込み、華氏五十度の温度の處に置き、日光の直射を遮り、發芽するまでは極少し濕つて居る位に止め、發芽して成育するに従ひ少しづゝ日に當て、又灌水の量を増し、鉢も大きくなして、常に強き光線を遮ります。肥料は蕾の出ました時に、よく腐熟した油粕汁の、薄いものを一二度與へます。培養土は輕き土四分、肥土、川砂各二分、腐葉土二分を混和したるものを用ひます。肥料は油粕が宜し。

灌水は朝か夕に一回、決して葉にかゝらぬ様に注意して與へます。此の水は微温い水に限り、ます。

謝花後は漸々灌水を減じ、終に鉢を横にして乾かし、後球を掘り上げて葉や根を切り捨て、冬季中は四五十度より下らざる處に貯藏致します。

繁殖は種子の外、葉又は芽を挿します。葉挿は充分に成熟せる母樹の、完全なる葉を取り葉柄の着きたるもの、砂交りの土を盛りたる箱又は鉢に挿し、蔭にして絶へず少し許り濕氣を保たして置きます。芽挿は春季、球より出ました芽を、一二寸の長さに切り取りて挿します。充分に活着しましたならば一本づゝ鉢にとり、前に申しました様に培養しますと、翌年より開花致します。

○(九) コンバラリア、マヤリス

Convallaria majalis 百合科

コンバラリア、マヤリスは英名を Lily of the Valley 和名を鈴蘭又は谷間の姫百合と申しまして、原産地は北部及び中央歐洲の森林内、本邦では信濃淺間の麓と、北海道であります。白い香佳ある花を一莖に數多開きます、それが恰も鈴を連ねた様で、誠に可憐でありますから、鉢植花壇植又は切花として、甚だ愛せられて居ります。

球は十月より三月頃までに、三寸程の深さに温床に植込み又は四寸位の鉢に三四球植ゑて、温室或は木框に入れ、半陰にして培養しますと、十一月には四週間で、一月には三週間で、二月には二週間で開花します。花壇に植ゑました時は、厚く霜除をして置けば安全に凌冬して、五六月頃開花いたします、土地

植の時は、三年位は植替ない方が宜しいのであります。

○(十) シクラメン

Cyclamen

観草科

シクラメンは、歐洲南部、アルプス山及び波斯原産のものであります。花は三四月頃から白、紅、淡紅、牡丹色、ぼかし、絞り等の一重又は八重の、美はしい花を開いて、早春室内又は温室等の裝飾用として貴ばれて居ります。

球は九月頃四寸程の鉢に、輕鬆な土に同量の腐葉土、少量の川砂及び油粕等を混ぜた土を入れ、球の半ばを土の上に出して植込み、温室、木框等に入れ、日當り及び空氣の流通をよくしまして、乾きました時は周圍から葉や芽に掛らぬ様に注意して灌水します。而して開花までに、二三次油粕を施しますと、實に美麗な花を開きます。

開花後、葉の枯れ凋みました後は、秋まで生育を休みますか
ら、日蔭に置いて、乾いた時極く少しづつ灌水します、けれ共
乾き目にして置くのであります。

繁殖は種子で致します。即ち七八月頃、砂交りの軽い土を盛
りました鉢に下種し、土を被はず發芽するまで水苔の類を被ふ
て、硝子板を載せ、日蔭に置き適宜の濕氣を保たして置きます。
發芽して一二葉出ました時他の鉢又は箱に前述の様に、球を土
の上に出して移植します、此時は前の球根植込の時と、同じ培
養土を用ひます、而して朝夕の弱い日光には當てるのですが、雨
等には打たれぬ様に致します。又成育期間には、時々薄き油粕
汁を與へ、降霜の頃になりましたならば、木框等に入れて冬を
凌がせ、翌春四月頃一球づつ一寸から二寸五分位の小鉢に植ゑ

時々薄い水肥を施しますと、二年目から開花します。

○(十二) スノードロップ

Snowdrop

石蒜科

スノードロップは、歐洲及び小亞細亞原産のもので、學名を
ガランツース (Galanthus) と云ひます。二月末から一重又は八重の
雪白の清雅なる可憐の花を開きます、蕾が出てから鉢植にすれ
ば、机上の飾りにもなります。
秋季日蔭の地に、一二寸の深さに、球を植ゑて置きますと、灌
水施肥又は霜除等の煩ひなくて、よく成育します。是は數年植
替ない方が宜し。

(十三) スパラキシス

Sparaxis

鳶尾科

スパラキシスは、南亞弗利加原産のもので、三四月頃から白
黄桃色、赤、黒紅斑入り等の數十種 of 美麗な花を開きます。鉢植又

は切花として誠に宜しいのです。

球根は九月の末から十一月頃、一寸位の深さに鉢に植込みます、四寸鉢ならば三四球が宜し、而して暖かい陰所に置き、餘り水を與へ過ぎぬ様にして、發芽後は充分日光に當て、風通しをよくし、冬は木框か温室内で栽培し、晴れた日には一回葉にかゝらぬ様に灌水して、開花までに二三回施肥します。開花後葉莖全く枯れました頃、堀上げて乾し秋まで濡れぬ様に貯藏して置きます。分球によつて繁殖します。

(十三) チグリチア

Tigridia

鳶尾科

チグリチア(英名 Tiger flower)は墨西哥、秘魯、智利邊に産します、六月頃から白、深紅、黄樺、黒紅、緋等に黄紅の斑入りの美麗な花を開きます。

球は十月頃から五月頃までに、鉢に植込み木框に入れ、發芽する迄は日光を遮つて、灌水も少しで宜し。葉が出ましてから、日光及び暖かい空氣に觸れさせ、少しづつ水を與へ、成長するに従つて其量を増加いたします。肥料は時々油粕を施せば宜し。園地には四月頃日當りのよい地に、二三寸位の深さに植込み、球の周圍に砂を少し許り混ぜて土を被ひ、開花までに一二回薄い水肥を與へれば宜しいのであります。砂に混ぜて開花後、全く枯れました時は、堀り上げて乾し、砂に混ぜて箱の中に入れ、次の植込み時まで貯藏して置きます。分球で殖へます。

(十四) チュベローズ

Tuberose

百合科

チュベローズは、和名を月下香と申します。東印度原産のも

ので、七八月頃三尺許りの花莖に、一重八重の白色の佳香ある、

瀟洒な花を開きます。

球は四月頃、花壇に二三寸の深さに植込み、球の周囲に少し

許りの砂を入れ、土を被ふて置き、六七月頃一回施肥します。

秋葉の枯れました頃、球を堀上げて乾し、暖かに圍ふて置きます。

○(十五) チューリップ

Tulip

百合科

チューリップは小亞細亞の原産で、四五月頃から白、紅、緋、黄、牡丹色、小豆色、紫、絞、り、覆輪、其他種々の色の、艶麗な優しい一重又は八重の花を開きます。其花色に富んで居ることは、球根草花中第一でありますから、花壇又は鉢に植ゑて、賞美するに缺く可からざるものであります。

十月中に球を日當りよき花壇に、深さ二三寸距離四五寸位に

植込みます。冬は藁か木の葉を、一二寸の厚さに被ふて霜害を

防ぎます。春になつて是等を取除いて、一回薄い水肥を與へま

す。灌水は全く必要がありません。

鉢仕立にするには二三の方法がありますが、最も手軽なのは

四寸から五寸位の鉢に、二三球植ゑ日當りのよい地に、一二寸

程の深さに鉢のまゝ埋めて、冬は霜除をして置きます。蕾が出

ました時、堀り出して一回薄い油粕汁か、馬糞汁を施せば宜し

いのです。而して餘り強い日光に當ると、蕾の焼ける憂があ

りますから、日中は少しく蔭に致して置きます。鉢植、花壇植共

に、開花が終つて、葉が枯れましたならば堀上げて、良く蔭干

にして乾し、濡れない風通りのよい所に貯へて置きます。